

命セラレタルトキハ指定ノ期口内ニ之ヲ差出スヘシ

第七條 願書届書請求書及圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ

第八條 砂鑛 取法第十一條ニ依リテ取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十九條ニ依

リ所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルモノハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添へ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第九條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ鑛山人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辨明書ヲ差出サシムヘシ

第十條 採取人ハ毎年二月第三號離形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採取業ヲ廢止又ハ讓渡シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出ツヘシ

休業ノ場合ニ於テ明細表ニ掲クヘキ事項ナキトキハ前項ノ期日内ニ其旨届出ヘシ

第十一條 採取業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添へ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ヘシ

第十二條 採取人廢業シタルトキハ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項廢業ノ日時ハ届書差出ノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

第十四條 砂鑛採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第十五條 左ニ掲タル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

一 明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書

二 採取地實測圖ノ添屬ナキ願書

三 土地所有者又ハ關係人ノ承諾書若クハ其承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサル願書

四 添屬圖面中出願區域不分明ナル願書

第十六條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

一 本則第四條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲ爲ササルトキ

二 正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立會ヲ爲ササルトキ

三 願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ

四 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ

五 出願人ノ住所不分明ナルトキ

第十七條 本則第五條又ハ第六條ヲ犯シタル砂鑛採取人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第十八條 本則第十條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第十九條 本則第十一條ヲ犯シタルモノハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十條 砂鑛採取法施行以前ニ差鑛出シタル砂鑛ハ取願書ニシテ同法施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同法ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ
第二十一條 本則施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ
第二十二條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十六年農商務省令第八號砂鑛採取法施行細則ハ同日廢止ス
書式(用紙美濃紙)
第一號(正副四通)

但砂鑛採取願ニハ印紙貼用ニ及ハス
此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何府縣國郡市町村大字 官地又ハ民地
小字 全地 地種地目

小字 ノ内 官地又ハ民地
何坪 地種地目

右ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

住所族籍
年月日 願人 氏 名印

農商務大臣爵氏名殿

第二號(正副四通)河床ニ於ケル採取願ノ分)

但砂鑛採取願ニハ印紙貼用ニ及ハス
此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何府縣國郡市町村大字小字ヨリ
何府縣國郡市町村大字小字ニ至ル
延長何里何町何間(幹流支流ヲ總算スヘシ)
右ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

住所族籍

鑛業

年月日

願人 氏 名印

但組合人アラハ連署連印スヘレ

農商務大臣爵氏名殿

第三號(正副三通)

砂(金)(錫)(鐵)採取業讓渡願

何年何月何日第何號許可

一廳府縣郡市町村大小字

右採取事業今般(讓渡)(若クハ加名)致度候ニ付許可相成度此段相願候也

住居族籍

年月日

(讓渡人又ハ採取人) 氏 名印

但組合人アラハ連署連印スヘレ

(讓受人又ハ加名人) 氏 名印

農商務大臣爵氏名殿

離形

第一號(枚數願書ニ同シ)

明治

年 月

日出願

砂(金)(錫)(鐵)採取地實測圖

尺度何分ノ一

何府何國何郡何町村何大字何字

住所族籍

小字何全地 官地又ハ民地
地種地目
小字何ノ内 官地又ハ民地
地種地目
何 坪

測量者 氏 名 印

探取願地 境界線

橋梁

國界

渡船場

郡界

道路

村界

人家

大字界

堤防

小字界

官地民界

地圖略ス

注意

- 一 區域境界ハ隅角ノ少キ邊區畫レ各隅ニ顯著ナル標木ヲ設クヘレ
- 二 坪數ハ四拾五入レテ坪ニ止ムヘシ
- 三 基點ハ二箇以上ヲ設ケ名稱アル川澤家屋橋梁道路辻巖石大水等容易ニ動ス可カラサルモノタルヘシ

四 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ試掘地若クハ鑛區砂鑛採取地アラハ相互接近シタル隅角ノ方位間數ヲ測定シ圖上ニ掲クヘシ

離形(河床ノミノ分)

第二號 枚數願書ニ同シ) 明治 年 月 日 出願

砂(金)(錫)(鐵)採取地實測圖 尺度何分ノ一

何府 何國 何郡 何町 何大字 何小字

何河筋 何大字何小字ニ至ル

延長何里何町何間

第一支流何里何町何間

第二支流何里何町何間

第三支流何里何町何間

住所族籍

氏名

測量者

氏名

印

官民地界

橋梁

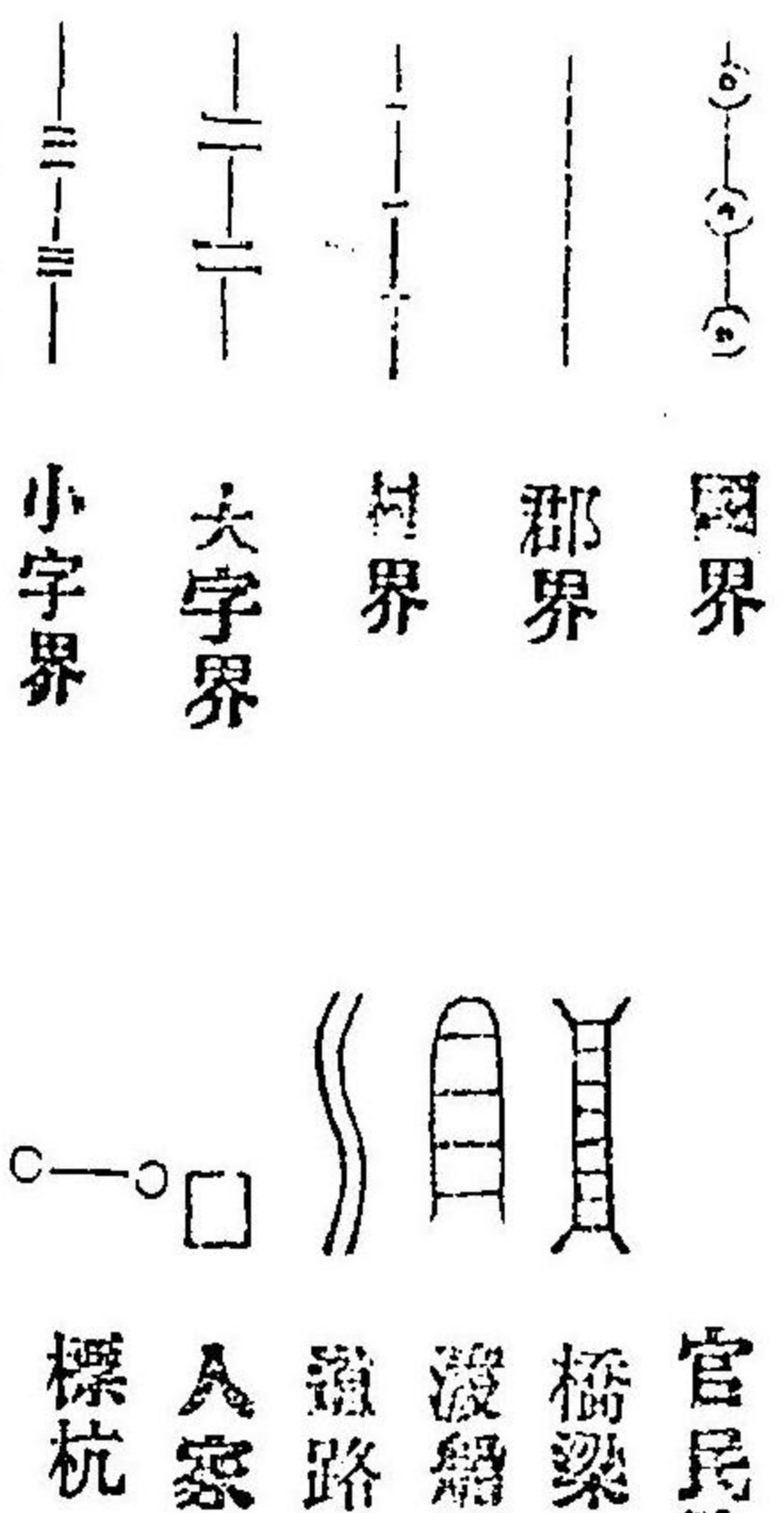
渡船場

道路

人家

標杭

地圖略ス



注意

一 鑛點ハ二箇以上ヲ設ケ名稱アル川澤家屋橋梁道路辻巖石大木等容易ニ動ス可カラサルモノタルヘシ

二 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ試掘地若クハ鑛區砂鑛採取地アラハ相互接近シタル隅角ノ方位間數ヲ測定シ圖上ニ掲クヘシ

三 支流ノ番號ハ出願ニ係ルモノノミヲ掲クヘシ

離形 (用紙獎濃紙)

第三號(正副二通)

年何治明		許可		採取場位	何府縣國郡村大字小字	採取人	住所族籍
許可	年月日	許可	許可				
採取	越	高	高	里又坪數ハ數		何	某印

砂(銀)(金)(錫)採掘業明細表

事 記	人 員	工 數	殘 高	販 賣	
				代 價	數 量

注意

採掘高砂金ハ勿論他ハ貫テ單稅トス
 坪數又ハ里數ノ欄ニハ採取場ノ坪數若クハ其延長里數ヲ記スヘシ但シ其年十二月三十
 一日現在ヲ記入スルモノトス

人員ハ十二月三十一日現在ノ使役人員ヲ記入スヘシ

○鑛業及砂鑛採取ニ關スル手續料ノ件 明治廿七年七月十二日 勅令第百號

砂鑛及砂鑛採取業ニ關スル手續料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 鑛業及砂鑛採取業ニ關シ次ニ掲ケタル出願又ハ請求ヲナス者ハ左ノ手續料ヲ
 納ムヘシ (手續料中登録稅法ニ掲載シアルモノハ各其法ニ依ルヘシ)

- 一 試掘認可願 一件毎ニ 金 拾 圓
- 二 試掘出願中ニ係ル區域變更願 金 五 圓
- 三 增區ニ係ル試掘地訂正願 金 拾 圓
- 四 減區同上 金 壹 圓
- 五 增減區同上 金 拾 圓
- 六 試掘延期願 金 五 圓
- 七 試掘地ニ於ケル採掘特許願 金 拾 五 圓
- 八 採掘特許願 金 五 圓
- 九 採掘特許出願中若ハ試掘地ニ於ケル採掘特許出願中ニ係ル區域變更願 金 五 圓
- 十 全名證書換願 金 五 圓
- 十一 增區ニ係ル鑛區訂正願 金 拾 五 圓

鑛業

- 十二 減區同上 全 金五圓
- 十三 増減區同上 全 金拾五圓
- 十四 鑛區ノ合併若クハ分割願 全 金五圓
- 十五 鑛業特許證書換願 全 金五圓
- 十六 探掘權書入寮錄願 全 金五圓
- 十七 鑛業特許證再下付願 全 金壹圓
- 十八 坑内實測圖證明請求 全 金拾圓
- 十九 測量認可請求 全 金壹圓
- 二十 砂金若クハ砂錫採取願 六拾萬坪迄毎ニ 金拾圓
- 二十一 河床ニ於ケル砂金若クハ砂錫採取願 全 金拾圓
- 延長(幹流支) 五里迄毎ニ 全 金拾圓
- 二十二 鑛山監督署長ノ判定請求 一件毎ニ 金五圓
- 二十三 農商務大臣ノ裁定請求 全 金拾圓
- 第二條 鑛業條例第九十條ニ依リ探掘特許ヲ限願スル者ハ手数料金五圓ヲ納ムヘシ
- 第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
- 第四條 本令ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス

附則

明治廿五年勅令第二十六號ハ本令施行日ヨリ廢止ス

○共同鑛業出願及其共同鑛業總代規則

明治二十九年七月八日 農商務省令第七號

- 第一條 二人以上共同シテ試掘、探掘、採掘權ノ買受、讓受ヲ出願スルモノハ總代一名ヲ選定シ出願ト同時ニ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
- 總代ハ出願ノ取消、出願區域ノ變更及名義變更ヲ除ク外共同出願人ヲ代表スルモノトス
- 第二條 前條出願總代ノ届出ヲナサハルトキハ初筆出願人ヲ以テ出願總代ト看做ス
- 第三條 鑛業條例第六條ノ總代届書ハ試掘認可、探掘許可又ハ名義變更ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ
- 前項期限内ニ總代届ヲ差出サハルトキハ共同出願總代ヲ以テ鑛業總代ト看做ス
- 第四條 本令施行以前ノ共同出願人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ出願總代ヲ定メ届出ツヘシ
- 第五條 共同試掘人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ總代ヲ定メ届出ツヘシ
- 第六條 本令ハ明治二十九年九月一日ヨリ施行ス
- 鑛山監督署官制 明治廿六年十月三十日 勅令第四百四十八號
- 朕鑛山監督署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 鑛山監督署官制

第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク
鑛山監督官 技師 書記 技手

第三條 鑛山監督官ハ委任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ五人ヲ以テ定員トス鑛山監督署長トナリ農商務大臣ノ指撥監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ各鑛山監督署ヲ通シテ七人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第五條 書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ三十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技手ハ各鑛山監督署ヲ通シテ四十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第七條 鑛山監督署ノ名稱位置及爲ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

附則

第八條 本令ハ明治廿六年十一月十日ヨリ施行ス

(別表)

鑛山監督署名稱位置管轄區域表

名	稱	位	置	管轄	區域
東京鑛山監督署	武藏國	東京		東京府 福島縣 宮城縣 神奈川縣 埼玉縣 富山縣 群馬縣 新潟縣 岐阜縣 茨城縣 千葉縣 愛知縣 靜岡縣 栃木縣 長野縣 山梨縣	
秋田鑛山監督署	羽後國	秋田		巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣	
大坂鑛山監督署	攝津國	大坂		京都府 大坂府 廣島縣 兵庫縣 奈良縣 三重縣 石川縣 滋賀縣 和歌山縣 福井縣 高知縣 徳島縣 鳥取縣 香川縣 岡山縣 愛媛縣 島根縣	
福岡鑛山監督署	筑前國	福岡		長崎縣 大分縣 山口縣 福岡縣 熊本縣 佐賀縣 鹿島縣 宮崎縣 沖繩縣	
札幌鑛山監督署	石狩國	札幌		北海道	

○鑛山監督署長權限

明治二十五年四月五日
農商務省訓令第八號

第一條 鑛山監督署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付凡テ其責ニ任ス

第二條 鑛山監督署長ハ管内ヲ巡視シ及ヒ部下ノ職員ニ管内巡廻ヲ命シ又ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ管外出張ヲ爲シ及ヒ之ヲ命スルコトヲ得

第三條 鑛山監督署長ハ判任官以下ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及ヒ除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第四條 鑛山監督署長ハ月俸十二圓又ハ日給五十錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第五條 鑛山監督署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第六條 農商務大臣ニ經同ヲ要スヘキ事項ハ總テ鑛山局長ヲ經由スヘシ

○鑛山監督署ハ民事訴訟ニ付國ヲ代表ス 明治廿五年四月五日 農商務省令第八號
鑛山監督署ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

◎地 質

○地質調査所ニ於テ爲ス分析試験ニ關スル手数料徴收ノ件 明治二十五年七月十一日 勅令第六十三號
農商務省地質調査所ニ於テ爲ス分析試験ニ關スル手数料徴收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農商務省地質調査所ニ分析試験ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 一性分ノ定性分析ハ金一圓トス一定性ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
- 二 鑛物、工業用原料、製造品等中一性分ノ定量分析ハ金二圓トス一定量ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
- 三 一金属ノ乾式定量分析ハ金二圓トス一定量ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
- 四 鑛物類ノ比重、硬度ノ檢定ハ一處毎ニ金五十錢トス
- 五 耐火材料用ノ粘土、煉化石等ノ火熱ニ於ケル實驗、陶磁器、煉化石、「セメント」原料用粘土類ノ器械分析及ヒ應用試験ハ金二圓以上二十圓以下トシ試験ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル
- 六 器械油等ノ比重、粘力、引火點、凝結點、沸騰點、溶解點、乾燥質ノ試験ハ一處毎ニ金五拾錢トス金属ニ於ケル作用、酸類及ヒ「アルカリ」ノ作用、酸類ノ定量、分留、

沃度化合類、鹼化類等ノ試験ハ第二號ニ準ス

七 建築材料等ノ吸水力、耐壓力、耐延力、凍塞ニ於ケル作用、石灰ノ「モルタル」製出力等ノ試験ハ一處毎ニ金一圓トス

八 「セメント」ノ比量、一定容量ノ重量、硬化ノ時間、粉末ノ細粗硬化ノ際膨脹ノ程度、龜裂ノ現象等ノ試験ハ一處毎ニ金五十錢硬力即チ耐壓力並ニ耐延力等ノ檢定ハ一處毎ニ金一圓以上金十圓以下トシ試験ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル

九 右各號外ニシテ化學工業ニ屬スルモノト認ムル試験手数料ハ前示割合ニ準シ時々農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル

十 時日ヲ限リ分析試験チ依頼スルトキハ前示手数料ノ二倍トシ同人ニシテ同種類ノモノ五箇以上ノ試験ヲ同時ニ依頼スルトキハ前示手数料ノ二割ヲ減ス

第二條 前條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條 本令ハ明治二十五年八月一日ヨリ施行ス

○分析試験依頼者心得 明治二十五年七月二十五日 農商務省告示第十三號

一 明治二十五年勅令第六十三號ニ依リ農商務省地質調査所ニ分析試験ノ依頼ヲ爲ス者ハ依頼書ニ供試品ヲ添ヘ直ニ該所ニ差出スヘシ

二 供試験品ノ分量ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一 礦物類ノ分析ハ 十匁以上

二 石炭ノ分析ハ 一斤以上

三 金屬ノ乾式定量分析ハ 四十匁以上

四 礦物類ノ比重硬度等ノ檢定ハ 二匁以上

五 耐火材料用ノ粘土、煉化石、等ノ火熱ニ於ケル實驗「セメント」原料用粘土類ノ器械分析及應用試験ハ 三斤以上

六 器械油等ノ比重、粘力、引火點、乾燥質ノ試験等ハ 五合以上

七 建築材料等ノ吸水力耐壓力凍塞ニ於ケル作用等ノ試験煉化石ハ試験一處毎ニ標本八箇以上石材ハ試験一處毎ニ一寸六分五厘乃至三寸三分立方(五乃至十「センチメートル」立方)ノ標本 八箇以上

八 「セメント」ノ比重硬化ノ時間粉末ノ細粗硬化ノ際膨脹ノ程度龜裂ノ現象等ノ試験ハ 三斤以上
一定容量ノ重量ノ檢定 五斤以上
耐延力及ヒ耐壓力ノ試験 二十七斤以上

九 右各號外ノ分析試験品ノ分量ハ臨時指揮ヲ受クヘシ

三 依頼書ハ式ハ左ノ如シ

第一號書式 (用紙美濃紙)

分析依頼書(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

- 一 試験品名何々(試験品ノ名稱ヲ記スヘシ)
- 二 産地若クハ製造地(市町村等ヲ掲クヘシ)及ヒ製造人名何々
- 三 定性若クハ定量スヘキ物質(定性若クハ定量スヘキ物質ノ名稱ヲ左ニ列記スヘシ)
 - 一 何々
 - 一 同
 - 一 同

右分析及御依頼候也

年月日

分析依頼者 氏 名 印

現住所

農商務省 質調査所長 氏名殿

第二號書式 (用紙美濃紙)

試験依頼書(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

- 一 試験品名何々(試験品ノ名稱ヲ記スヘシ)

二 産地若クハ製造地名(市町村等ヲ掲クヘシ)及ヒ製造人名何々

三 試験ノ目的(例ヘハ建築材料即チ煉化石ノ如キモノナレハ吸水量耐壓力凍害

ニ於ケル作用等)セメント「ナレハ比重一定容量ノ重量硬化ノ時間粉末ノ細組

硬化ノ際膨脹ノ程度龜裂ノ現象等其所要試験ノ要領ヲ記スヘシ)

右試験及御依頼候也

年月日

試験依頼者 氏 名 印

現住所

農商務省地質調査所長 氏名殿

◎組合

○同業組合準則

明治十七年十一月二十九日
農商務省達第三十七号

府 縣

同業者組合ヲ結ビ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠
候處往々其目的ヲ達スルコト能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設
ケ規約ヲ作り認可ヲ請フ者アルトキハ此準則ニ其ツキ可取扱此旨相達候事
但認可ノ都度當省ニ届出ツヘシ

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合
ヲ設ケントストキハ適宜ニ範圍ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ
規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱
- 第二項 組合ノ區域及事務所ノ位置
- 第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アル

トキハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事業及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ

第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケル其規約ヲ作ルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但其聯合ニ府縣以上ニ渉ルトキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

○同業組合準則

明治十八年一月二十二日
山口縣布達甲第七号

農商工事業ノ改良ヲ圖リ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正セシムルニハ同業一致協力ニテ之ヲ行ハシ其効ヲ奏スルコト克ハス今般其筋ノ達ニ基キ同業組合準則左ノ通り相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ者ハ此準則ニ基キ願書正副三通ヲ認メ郡區役所ヲ經テ差出スヘシ

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 同業者組合ハ同盟中營業上ノ利害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ參テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アル

トキハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フヘシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事業及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ

第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルトキハ管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ

ヘシ

右布達候事

○同業組合準則適用ニ關スル件

明治十八年八月八日
農商務省達第三十五號

府 縣

客員(十一月)本省達第三十七號同業組合準則ハ專ラ管下重要物産ノ改良蕃殖ニ關スル
農商工業者ノ組合ニ限リ適用スル儀ト可必得此旨更ニ相達候事

○同業組合準則適用ノ件

明治十八年八月二十五日
山口縣布達甲第九十二號

本年(一月)本廳達甲第七號同業組合準則ハ專ラ重要物産ノ改良蕃殖ニ關スル農商工業
者ノ組合ニ限リ適用スル儀ト心得ヘシ

右布達候事

○同業組合地區内ノ同業者ハ組合ニ加盟スヘキ件

明治廿年九月二十九日
山口縣令第四百十二號

重要物産ノ改良増殖ヲ計ランカ爲メ管轄ノ令達ニ依リ設置シタル同業組合ノ地區内ニ
於テ組合員ト同業ヲ營ムモノハ其組合ニ加盟スヘシ

○同業組合事蹟報告

明治十九年六月十九日
山口縣布達甲第七十五號

明治十八年(一月)甲第七號布達同業組合準則中第六條事蹟及費用決算表報告様式左ノ
通相定ム

但茶業組合蠶絲業組合漁業組合等モ右ニ準ス

右布達ス

事蹟報告書

一 組合人員

前年度末月ニ比シ其増減及新規加盟者退去者入員共

一 會費

組 合

通常會及臨時會議決ノ要領及同業會話等開設ノ節ハ其決了書共
一 違約者處分法

違約ノ處分ヲナシタル人名及違約ノ事蹟并ニ處分ノ顛末等

一 專業ノ概況

事業ノ盛衰及其原因并目下ノ景況及將來消長ノ見込等

(右ノ外組合ニ於テ執行シタル事務ノ大要)

右明治何年度當組合事蹟及報告候也

何郡區何々同業組合

年月日

役員 姓名 印

縣令宛

明治何年度費用決算表

種目	豫算	精算	差引増減
役員給料			
書記雇給			
役員旅費日當			

雇夫給	備品	消耗品	郵便電信	需用品	計

右明治何年度當組合費用決算表及報告候也

山口縣何郡區何々同業組合

年月日

役員 姓名 印

縣令宛

○産業組合規約更正願心得

明治二十六年一月二十一日
山口縣訓令第二丁第四三號

産業諸組合ヨリ規約更正ノ認可ヲ願出ツルキハ其理由ヲ附ヒシメ事實精査ノ上意見ヲ具シテ進達スヘシ

○産業組合費ノ豫算及徴収法認可ノ件 明治二十六年七月二十八日 山口縣令第三十九號
 準則ニ據リ當廳ノ認可ヲ得テ設立シタル産業諸組合ハ組合會總ニ於テ毎年度經費收支ノ豫算及賦課徴収方法ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其收支精算ハ組合會總ニ報告シ其承認ヲ得タル後當廳ニ報告スヘシ

○産業組合ニシテ訴訟等事ヲリシトキ届出ノ件 明治廿七年六月十三日 山口縣内務部長照會三丁第七九九號
 當廳ノ認可ヲ得テ設立シタル産業諸組合ニシテ訴訟ノ當事者トナリタルトキハ其訴件ノ要旨及年月日ヲ届出訴件結了シタルトキハ更ニ其結果及年月日ヲ可届出様各組合ニ指示通知成度奉命此段及照會候也

○組合取締ニ關スル命令發布ノトキ稟請方ノ件 明治二十六年五月廿二日 農務商工局長通牒
 明治十七年當省第三十七號達同業組合準則ノ範圍外ニ涉リ農商工業ニ係ル組合ヲ結ハシメ若クハ組合取締等ニ關スル命令御發布相成候節ハ其名稱ノ規則タルトキ準則タルトヲ問ハス自今豫メ本省ニ御稟請可有之候大臣ノ命ニ依リ此段及御通達候也

◎度量衡

○度量衡法 明治二十四年三月二十三日 法律第三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
度量衡法

第一條 度量ハ尺衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金「イリヂウム」合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命題ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 度
- 毛 尺ノ萬分ノ一
- 厘 尺ノ千分ノ一
- 分 尺ノ百分ノ一
- 寸 尺ノ十分ノ一
- 尺
- 丈 十尺
- 間 六尺

度量衡

町 三百六十尺(六十間)
 里 一萬二千九百六十尺(三十六町)

地積

勻 歩ノ百分ノ一
 合 歩ノ十秒ノ一
 畝 一坪六十尺平方
 段 三十歩
 町 三百歩
 里 三千歩

量

勻 升ノ百分ノ一
 合 升ノ十分ノ一
 升 六萬四千八百二十七立方分
 斗 十升
 石 百升
 衡 貫ノ百萬分ノ一

衡

毛 貫ノ百萬分ノ一

厘 貫ノ十萬分ノ一
 分 貫ノ萬分ノ一
 匁 貫ノ千分ノ一
 貫 斤 百六十匁

第四條 從舊慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限り之ヲ用ヰルコトヲ得

鯨尺一尺ハ壹尺貳寸五分トシ其十倍ヲ鯨尺壹丈十分ノ一ヲ鯨尺壹寸百分ノ一ヲ鯨尺壹分トス

第五條 「メートル」法度量衡ハ左ニ掲クル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本條以下ノ規定ヲ適用ス

度

「メートル」	〇、〇〇〇〇〇三
「ミリメートル」	〇、〇〇〇三三〇
「センチメートル」	〇、〇三三〇〇
「デシメートル」	〇、三三〇〇〇

寸	〇、〇三〇三〇 (三萬三千分ノ一千)	「メートル」	三、三〇〇〇〇
尺	〇、三〇三〇三 (三萬三千分ノ一萬)	「デカメートル」	三三、〇〇〇〇〇
丈	三、〇三〇三〇 (三萬三千分ノ十萬)	「ヘクトメートル」	三三三〇、〇〇〇〇〇
間	三、八一八一八 (十一分ノ二十)	「キロメートル」	三三三〇〇、〇〇〇〇〇
町	〇、九〇九〇九 (十一分ノ一千二百)		
里	二、九二七、二七二七三 (十一分ノ四萬三千二百)		
地積			
「アール」			
勺	〇、〇〇〇三三 (三千〇二十五分ノ一)	「センチアール」	〇、三〇二五〇
合	〇、〇〇三三一 (三千〇二十五分ノ十)	「アール」	三〇、二五〇〇〇
歩	或ハ坪	「ヘクタール」	三〇二五、〇〇〇〇〇

量

畝	〇、九九一七四 (三千〇二十五分ノ三千)		
段	九、九一七二六 (三千〇二十五分ノ三萬)		
町	九、九一七三五五 (三千〇二十五分ノ三十萬)		
「リットル」			
勺	〇、〇一八〇四 (十三萬三千一百分ノ二千四百〇一)	「センチリットル」	〇、〇〇五五四 (二千四萬〇一百分ノ一千三百三十一)
合	〇、一八〇三九 (十三萬三千一百分ノ二萬四千〇十)	「デシリットル」	〇、〇五五四四 (二十四萬〇一百分ノ一萬三千三百十)
升	一、八〇三九一 (十三萬三千一百分ノ二十四萬〇一)	「リットル」	〇、五五四二五 (二十四萬〇一百分ノ十三萬三千一百分)
斗	一、八〇三九〇七 (十三萬三千一百分ノ二百四十萬一千)	「デカリットル」	五、五四三五二 (二十四萬〇一百分ノ百三十三萬一千)

衡

石	一八〇、三九〇六八 (十三萬三千一百分ノ二千四百〇 一萬)	「ヘクトリットル」	五五、四三九二四 (二十四萬〇一百分ノ 一千三百三十一萬)
毛	「グラム」	〇、〇〇〇三七五	〇、〇〇〇二七 (一萬五千分ノ四)
厘	〇、〇三七五〇	「センチグラム」	〇、〇〇二六七 (一萬五千分ノ四十)
分	〇、三七五〇〇	「デシグラム」	〇、〇二六六七 (一萬五千分ノ四百)
匁	三、七五〇〇〇	「グラム」	〇、二六六六七 (一萬五千分ノ四千)
貫	三、七五〇、〇〇〇〇〇	「デカグラム」	二、六六六六七 (一萬五千分ノ四萬)
斤	六〇〇、〇〇〇〇〇	「ヘクトグラム」	二六、六六六六七 (一萬五千分ノ四十萬)
		「キログラム」	二六六、六六六六七 (一萬五千分ノ四百萬)

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス

農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス

副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス
第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ

地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡檢定ノ標準ニ供スルモノトス
第八條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣セント欲スルモノハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ

製作ノ免許ヲ得タルモノハ修覆及販賣ヲナスコトヲ得
免許ニ關スル年限身元保證金其他必用ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
販賣ノ免許ヲ得タルモノハ桿秤ノ取緒及錘系ニシテ金屬ニアラサルモノニ限リ修覆ヲナスコトヲ得

第九條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ
營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修覆シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ
官廳公署官立公立ノ諸建設場又ハ貧院病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス
製作者修覆者及販賣者桿秤ノ取緒及錘系ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲナシタルモノハ其檢定ヲ受クルヲ要セス

度量衡

第十條 度量衡器ノ種類形狀物質檢定ノ定期及公差檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小定限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス
地方長官ハ市長町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及
ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作者修繕者販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ該吏員ノ臨檢
ヲ拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タル證票ヲ携帯シテ之ヲ示スヘシ

第十三條 度量衡器ノ製作修繕及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ檢定ヲ受クル者ハ
檢定料ヲ納ムヘシ

免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者修繕者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背
シタルトハ農商務大臣ハ該營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケズシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ
若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰
金ニ處ス
差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項
ニ同シ

第六條 本法施行ノ規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 度量衡器ノ製作ニ關シ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此場
合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用セズ

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セ
ズ本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢
定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過タル後之ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ
使用スルコトヲ得ズ

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修繕セラルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年
ヲ過リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七
號布告度量衡檢定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止
ス但シ度量衡取締條例並檢査規則ハ舊條ノ場合ニ際シ明治三十二年十二月三十一
日マテ其効力ヲ存ス

○度量衡法施行規則 明治二十四年八月十九日 農商務省令第十一號

度量衡

度量衡法施行規則左之總相定ム
度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作、修覆若ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス
常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方官便宜其場所ヲ指定スヘシ
前項特設檢定所ノ場所及檢定ノ期日ハ其檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示スヘシ

地官長官ニ於テ地方ノ狀況ニ依リ該廳所在地外ニ常置檢定所ヲ設置スヘキ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルトキハ製作、修覆若ハ輸入シタル者ハ左ノ甲號書式ニ營業ノ目的ニ使用スルモノハ乙號書式ニ依リタル檢定請求書ニ明治二十四年勅令第一百七十七號第九條ニ定ムル檢定料總額ノ登印紙ヲ貼用シ之ヲ器物ニ添ヘ度量衡檢定所ニ差出スヘシ
(甲號書式用紙濃)

度量衡檢定請求書

九號ニ登
北印紙ヲ
貼用シ消
ハスヘシ

(度量器)

形狀	種類	全長		類	製作又ハ輸入番號	筒數
		直尺何尺又ハ何メートル	何分又ハ何リメートル			
竹	直尺	何尺又ハ何メートル	何分又ハ何リメートル	何號又ハ自何號至何號	何	何

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度量器ニ限ル)

(量器)

形狀	種類	製作又ハ輸入番號	筒數
方	何升又ハ何リット	何號又ハ自何號至何號	何

(斗 概)

斗	(分銅)		何	箇
	概	何		
種	何 又 又 ハ 何 「グラム」	類	箇 數 及 組 數	箇
秤	何 何 「グラム」	秤 量	感 量 又 目 盛	箇 數
(秤)				
年月日	宿 所			何 某 印

第三條 五分若クハ一「グラム」未満ノ分銅ノ檢定ハ常置度量檢定所ニ於テ之ヲ行フ
 第四條 檢定所ニ度量衡器ヲ差出シ難キトハ其ノ事由及度量衡器ノ種類、箇數等ヲ詳
 記シ特ニ其ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受クンコトヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得
 地方長官前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ請求者ハ檢定吏員ノ爲メニ成規ノ旅費日當
 其ノ他檢定ニ要スル費用ヲ負擔シ檢定吏員ノ指示ニ從ヒ諸般ノ準備ヲナスヘシ但シ
 旅費其ノ他ノ費用ハ之ヲ前納スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ請求書ヲ出張吏員ニ差出スヘシ

第五條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、度量器ノ目盛及分銅ノ最小定限並ニ公差ハ明治
 二十四年勅令第七十七號第一條、第二條、第三條及第四條其ノ構造ハ本令第二章
 ノ規定ニ依リ檢定スヘシ

第六條 度量衡器ヲ檢査セタルトキハ其ノ合格ノモノニハ檢定ノ證印ヲ附シ、證印ヲ
 附シ難キモノニハ證書ヲ附シ、證印又ハ證書アルモノニシテ不合格ノトキハ之ニ消
 印ヲ附スヘシ

第七條 證印、證書、消印及年號印、廳府縣印ノ種類、離形ヲ定ムルコト左ノ如シ

打込ミ印

大 四分平方

烙キ印

大 四分平方

度量衡

一 證印正

中 二分平方
小 六厘平方

小 二分平方

檢 查 之 證

年 月	種 類	製 作 人	年 號	番 號	物 質	形 狀
		廳 府 縣	何 年	第 何 號	何	何
廳 府 縣		何				
度 量 衡 檢 定 所 印		某				

大 橫三寸五分
橫五寸

小 橫一寸二分
橫一寸五分

打込印

大 長徑四分
短徑二分六厘

烙印

大 長徑四分
短徑二分六厘

押印

大 長徑六分
短徑四分

一 消印



中 長徑二分
短徑一分三厘

小 長徑二分
短徑一分三厘

小 長徑六厘
短徑四厘

打込印、烙印共

廿六

(明治二十六年)

一 年號印
一 廳府縣印

北 海 道 廳	北	大 坂 府	大 坂 府	オホカ
東 京 府	東	神 奈 川 縣	神 奈 川 縣	カネガハ
京 都 府	京	兵 庫 縣	兵 庫 縣	フクヤマ
長 崎 縣	ナガサキ	岐 阜 縣	岐 阜 縣	ノガ
新 潟 縣	ニガタ	長 野 縣	長 野 縣	ノガ
埼 玉 縣	サイタマ	福 島 縣	福 島 縣	フクマ

群馬縣	群馬	宮城縣	ミヤギ
千葉縣	千	巖手縣	イワテ
茨城縣	茨	青森縣	アオモリ
栃木縣	栃	秋田縣	アキタ
奈良縣	奈	山形縣	ヤマガタ
三重縣	三	石川縣	イシカワ
愛知縣	ア	富山縣	トヨカミ
靜岡縣	静	福井縣	フクイ
山梨縣	ヤマ	島根縣	シマネ
滋賀縣	滋	鳥取縣	トリアキ
岡山縣	岡	福岡縣	フクオク
廣島縣	廣	大分縣	オオイト

山口縣	クニ	佐賀縣	サガ
和歌山縣	和	熊本縣	クマモト
德島縣	徳	宮崎縣	ミヤザキ
香川縣	香	鹿児島縣	カゴシマ
受媛縣	メ	沖繩縣	チヨウセン
高知縣	高		

度量衡

第八條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其ノ器ノ檢定ヲ受クヘシ

第二章 構造

第九條 度器ハ表面ニ其全長ヲ表記スヘシ但シ細帶狀ノ度器ニシテ函ニ連結シタルノハ其函ニ表記スルモ妨ナレ
 鏈狀ノ度器ハ其一端ノ環ニ其ノ全長ヲ表記スヘシ
 鋼鉄、革、麻布、製ノ細帶狀度器ハ其ノ一端ニ眞鍮片ヲ附着シ檢印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第十條 量器ハ外側ニ其ノ全量ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其ノ種類ノ大中小ヲ表記スヘシ

第十一條 鐵葉ヲ以テ五合及一「リットル」以上ノ量器ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニス
ヘシ

第十二條 鐵、銅若ハ真鍮ヲ以テ製作シタル量器ハ其ノ内面ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著スヘシ

第十三條 木製ノ量器ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被フヘシ
一升及二「リットル」以上ノ木製ノ方形量器ニハ其ノ側及底ノ四隅ノ外面ニ鐵帶ヲ曲
テ附加スヘシ其ノ圓形量器ニハ一箇又ハ交又シタル二箇ノ鐵帶ヲ曲ケ其ノ側及底ノ
外面ニ沿フテ附加スヘシ

酒、酢、醬油、食鹽等ノ如キ鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ヲ量ルニ用サル量器ニハ其ノ鐵ニ
錫又ハ白銅ヲ鍍著シ若ハ腐蝕セサル他ノ堅牢ナル物質ヲ以テ前二項ノ鐵ニ代フヘシ
鐵板又ハ鐵帶ヲ量器ニ附著スルニ螺旋釘ヲ以テシタルトキハ其ノ捻戻ヲナシ得ル
ル丈ケ釘頭ヲ削去スヘシ
斗概ハ鐵葉ヲ以テ其側面ヲ包ムヘシ但シ本條第三項ノ量器ニ附属スル斗概ハ此限ニ
アラス

第十四條 量器ニハ注口、趾及把ヲ附スルコトヲ得
注口ヲ附スルトキハ其容量ノ割合ニ應ジ量器ノ深サヲ減スヘシ
注口ノ口面ハ量器ノ上面ト其高サヲ同一ニスヘシ但シ玻璃製ノモノハ此限ニアラス

第十五條 圓形量器ノ口徑ハ其ノ深サト同一ニスヘシ但シ金屬製一升及二「リットル」
以下ノモノハ其深サノ二分ノ一トスヘシ

第十六條 衡器ノ重點及支點ニハ鋼鐵若ハ堅石ヲ用シ緒紐コハ金屬、草又ハ強韌ナル
絹絲、麻絲等ヲ用サルヘシ

第十七條 錘又増錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但シ其ノ重量五十匁又ハ
二百「グラム」以上ノモノニアラサレハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス

第十八條 分銅、錘及増錘ノ重サヲ齊整スル爲メ鉛ヲ用サルトキハ分銅及増錘ハ上面
ノ一部、錘ハ側面又ハ底面ノ一部ヲ穿テ此ニ鉛ヲ填充シ金屬片ヲ以テ之ヲ塞クヘシ
但シ分銅ノ把手ヲ螺旋ニナシテ其ノ穿口ヲ塞クトキハ釘ヲ以テ之ニ緊着スヘシ
前項ノ穿口ヲ塞クニハ鐵及螺旋釘ヲ用サルコトヲ得ス

第十九條 鐵製ノ分銅、錘及増錘ノ鉛ヲ填充セザルモノハ分銅及増錘ハ上面ノ一部、
錘ハ側面ノ一部ニ真鍮片ヲ挿入シ檢印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第二十條 分銅、錘及増錘ニ填充スル鉛ノ量ハ其ノ全量ノ二十分ノ一ニ超ユルコトヲ
得ス

第二十一條 天秤、臺秤、桿秤ハ其ノ最大重ヲ掛ケタル量ヲ秤量トシ左ノ定限以下ノ
量ヲ感スルコトヲ要ス

天秤 秤量ノ千分ノ一
臺秤 秤量ノ二千分ノ一

度量衡

桿秤 秤量ノ二百分ノ一

第二十二條 臺秤ハ秤量十貫若ハ三十「キログラム」以上ノモノニ限ル

第二十三條 臺秤ノ目盛ハ秤量ノ二千分ノ一以内桿秤ノ目盛ハ秤量ノ二百分ノ一以内トス但シ其ノ感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス

第二十四條 二段以上目盛シタル桿秤ノ感量ハ毎段ニ就キ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 桿秤ノ取緒ハ一緒若ハ二緒トス其ノ二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附着スヘシ

第二十六條 調子玉アル衡器ニシテ支點二箇以上ヲ設ケタルモノハ其支點毎ニ直點ヲ附スヘシ

第二十七條 分銅ハ其ノ重量、増錘ハ其ノ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ線狀ノ分銅ハ此限ニアラス

第二十八條 錘、増錘、皿等ニシテ其ノ附属スル秤桿ト分離シ得ルモノハ其ノ秤桿ト同一ノ符號ヲ表記スヘシ

第二十九條 天秤ハ其ノ秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其ノ他ノ部ニ表記スヘシ

第三十條 臺秤ハ其ノ蓋ノ縁ニ桿秤ハ其ノ桿ノ目盛ノ各段ニ秤量ヲ表記スヘシ

第三十一條 度量衡器ニハ製作者若ハ輸入シテ販賣スル者ノ記號及製作若ハ輸入ノ年號、番號ヲ併列シテ表記スヘシ

修葺シタル度量衡器ニシテ前項ノ記號、年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修葺者

ノ記號及修葺ノ年號番號ヲ表記スヘシ
表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ

明治二十六年製(輸入若ハ修葺)ノ第千八十號ハ

「記號26一〇八〇」又ハ

又ハ「記號26

一〇八〇

記號」

第三十二條 數箇ノ分銅ヲ一組トナストキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記號、年號及番號ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ難キトキハ表記スルコトヲ得

第三十三條 度量衡器ノ目盛ハ度及衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍若ハ此ノ倍數ノ十倍、百倍タルヘシ但シ斤ノ目盛ハ本條規定ノ外其ノ二分ノ一、四分ノ一ニナスコトヲ得

第三章 免許

第三十四條 度量衡器ノ製作、修葺若ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治二十四年勅令第七十七號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記スヘシ
度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤取緒錘絲ノ修葺ヲナサントスル者ハ本條ニ依リ豫メ其ノ設計ノ承認ヲ受クヘシ

第三十五條 農商務大臣ハ免許ヲ與ヘントスルトキハ其ノ通知書ニ免許料納入用紙ヲ添ヘ出願者ニ送付スヘシ

出願者ハ前項ノ免許料納入用紙ニ明治二十四年勅令第一百七十七號第八條ノ免許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ其ノ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ農商務省ニ納ムヘシ

第三十六條 免許料ノ納入ヲナシタルトキハ免許狀ヲ下付スヘシ

免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀受領ノ日附ヨリ三十日以内ニ明治二十四年勅令第一百七十七號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

免許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタルトキハ更ニ其下付ヲ請フヘシ

第三十七條 第三十五條ノ免許料及第三十六條ノ身元保證金ヲ規定ノ期限内ニ差出サハルトキハ其ノ出願又ハ免許ヲ無効トス

第三十八條 身元保證金ハ通貨若ハ公債證書ヲ地方長官ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其預リ證券ヲ地方廳ニ納メ置クヘシ但シ公債證書ハ時價ニ依リ其ノ二割ヲ増シテ納ムヘシ

地方長官前項ノ預リ證券ヲ受取リタルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三十九條 身元保證金ノ金額ニ減少ヲ生シタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ納入者ニ通知

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ完納セサルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ農

商務大臣ニ具申シ處分ヲ請フヘシ

第四十條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ

第四十一條 度量衡器ノ製作、若ハ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フヘシ但シ其ノ賣渡ヲ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器及前項ノ分銅ヲ製作スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

桿秤ノ原緒及錘絲ノ修覆ヲナス販賣者ハ其ノ修覆ニ要スル分銅及秤架ヲ備フヘシ製作若ハ修覆ニ用ル原器及前項ノ分銅ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

第四十二條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ表記ニ用ル記號ヲ定メ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ

第四十三條 從來度量衡製作若ハ賣捌ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ繼續セントスルトキハ明治二十五年九月三十日マテニ明治二十四年勅令第一百七十七號第六條ニ定ムル設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出テ繼續免許狀ヲ受クヘシ

繼續營業者ハ第三十八條ノ手續ニ依リ繼續免許狀受領ノ日ヨリ三十日以内ニ身元保

證金ヲ納ムヘシ

前二項ノ期限内届出及身元保證金ノ納入ヲナサル、若ハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第四十四條 前條届出ノ設計不適當ナルトキハ農商務大臣ハ期限ヲ定メテ其ノ變更ヲ命スヘシ

第四十五條 度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修復ヲナシタルトキ差在アリト認ムルニ於テハ其ノ旨ヲ地方廳長クハ市長町村長ニ届出ツヘシ

罰則

第四十六條 第八條第三十四條第二項及第四十五條ニ違背シタル者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第三十六條第三項第四十條若ハ第四十二條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第四十一條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○原器代價徴収委任ノ件 明治二十四年九月十二日 農商務省訓令第四十號

北海道廳 府 縣

本年對省令第十一號度量衡法施行規則第四十條ニ據ル度量衡器ノ製造修復原器拂下代ノ徴収方ハ其廳ニ委任候條二十三年對省訓令第六號及ヒ第二十九號ニ據リ取扱フヘシ

但二十五年度概算書ハ送付ニ及ハス

○度量衡法施行規則第三十八條ニ據リ身元保證金ヲ預ケ入ルヘキ銀行指定 明治三十年一月廿六日 山口縣告示第六號

度量衡法施行規則第三十八條ニ據リ身元保證金ヲ預ケ入ルヘキ銀行ヲ左記ノ縣指定ス

- 一 第一百十國立銀行
- 一 第一百三國立銀行
- 一 株式會社馬關商業銀行
- 一 株式會社華南銀行

○度量衡検査規則 明治八年八月五日 太政官達第百三十五號

尺度検査

尺度ノ検査ハ舊器新器共渾液ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法渾液ヲ以テ検査スル所ノ尺度ヲ挾ミ其挾ム所ノ長サヲ検査スル所ノ尺度ノ長サトシ之ヲ曲尺及鯨尺ノ原器ニ當テ、試験スルニ其挾ム所ノ長サ曲尺ノ原器ニ適合スル者ハ検査スル所ノ尺度之ヲ曲尺ト定メ其挾ム處ノ長サ鯨尺ノ原器ニ適合スル者ハ之ヲ鯨尺ト定メ乃チ其器ヲ正當トシ以テ各々檢印ヲ捺押シ且尺名印 曲尺ハ曲字ノ印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其挾ム處ノ長サ曲尺及鯨尺ノ原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ検査スル處ノ尺度之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

舊器斗量検査

舊器斗量ノ検査ハ斗量ノ原器ト漏斗トヲ用ヒ春キ稍ケタル粟粒ヲ以テ之レヲ検査スヘシ

其法檢査スル處ノ器假名一斗樹ナレハ左圖ノ如ク先ツ一斗樹ノ原器ヲ探リ漏斗ノ前位ニ於テ之ヲ盆上ニ據ヘ樹ノ中心ト漏斗口トヲテ上下相向ハシテ受取ヲ以テ樹ノ正上ニ據ヘ懸テ漏斗口ノ蓋ヲ鎖シ粟粒ヲ漏斗ニ入レ置クヘシ其量ハ本量ニ凡二割ヲ増シ凡一斗ニ升タルヘシ但五升ニハ六升一如此レテ漏斗ノ蓋ヲ開キ受取ヲ以テ其漏下スル處ノ粟粒ヲ受ケ且其受取處ノ粟粒ヲ凡ノ底隙ヨリ樹ニ漏移スヘシ尤此際徐々ニ受取ヲ轉廻シ粟粒ヲシテ樹ノ中央并四隅ニ遍滿セシムルヲ要ス既ニ之ヲ漏移シ終レハ斗概ヲ以テ其溢粒ヲ搔取リ之ヲ原量ト定ムヘシ尤此際斗概ノ使用ニ餘ケル其量面ヲシテ毫モ凹凸ナク斗邊ト相水平ナラシムルヲ要ス但盆上ニ散スル處ノ餘粒ハ樹ヲ撒シシ次ニ檢器ノ容量ヲ求ムル亦原器ニ於テスル法ノ如クレテ原器ノ容量ヲ得之ヲ檢量ト定ムヘシ次ニ此原器其檢量ヲ互移換容センカ爲メ檢量ヲ他器ニ移シ置キ以テ原量ヲ檢器ニ移シ檢量ヲ原器ニ移スヘシ其法都テ前法ノ如ク漏斗及受取ヲ用テ之ヲ各器ニ漏移シ既ニ之ヲ漏移シ終レハ原檢器共斗概ヲ以テ徐々ニ其量面ノ凸凹ヲ均平スヘシ此際斗概ノ使用ニ於ケル前後ノ手續ヲ輕重緩急極メテ不同ナキヲ要ス但斗概ヲ用アルノ後粟粒斗内ニ粒盆ニ散スル者アレハ之ヲ拾收シ既ニ之ヲ均平シ終レ乃チ原檢兩器相並ヘテ之ヲ試驗テ原檢量試驗ノ参照ニ充ツヘシモノハ之ヲ不正トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其量各存餘不足ヲ生スル者ハ檢査スル所ノ器之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ檢器斗量其檢査法皆之ニ準スヘシ

附則

但漏斗ノ製作左ノ圖面寸法ノ如クスレハ漏斗口ト一斗樹間トノ距離凡三寸許ナルヘシ故 餘種モ前距離ニ準セシメシメカ爲メ五升樹ヨリ以下ハ其高サニ隨ヒ適宜ニ之レガ蓋ヲ設クヘシ

權衡ノ各器リ緒ニ就テノ盛出シニ錘ヲ懸ケテ桿ノ水平ヲ得タルトモ其取リ緒ニ就テノ一度目ニ相當スル分銅ヲ皿又ハ鈞ニ加フルトモ感動ヲ起スモノヲ合格トシ感動セサルモノハ之ヲ不合格トスヘシ

舊器斗量檢査器械并檢査法之圖略ス

右漏斗并漏斗架、第一第二ノ圖ノ如ク各管端ニ於テ製作ノ上備ヘ置クヘシ

新器斗量檢査

新器斗量檢査ハ斗量尺度ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法斗量尺度ヲ檢査スル所ノ斗量ノ方深及弦線ノ幅厚ニ當テ、精密ニ之ヲ檢査スルニ其方深及弦線ノ幅厚斗量尺度ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其方深及弦線ノ幅厚斗量尺度ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

新器斗概檢査

新器斗概ノ檢査ハ斗概ノ原器ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法斗概ノ原器ヲ以テ檢査スル所ノ斗概ノ圓徑及長サニ當テ、之ヲ試驗スルニ其寸法原器ニ適合スルモノハ之ヲ正當ト

シ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其寸法原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

桿秤検査


桿秤ノ検査ハ舊器新器共尤ク其直點ノ正否ヲ検査スヘシ其法錘緒ヲ以テ其直點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試驗スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其直點ヲ正當トスヘシ次ニ其大小諸量點ノ正否ヲ検査スルニ各種ノ分銅、自一厘至二、ヲ以テスヘシ其法検査スル所ノ器五百匁掛鈹皿秤ナレハ先ツ其最重一匁ノ分銅、即器亦ヲ以テ之ニ掛ケ錘緒ヲ以テ其量點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試驗スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキモノハ其量點ヲ正當トスヘシ次ニ二匁ノ分銅、即器五匁ノ分銅、其次十匁ノ分銅、其次二十匁ノ分銅トテ逐テ各種ノ分銅ヲ掛ケ終レハ更ニ前緒并元テ各之ヲ試驗スヘシ如シ上緒ニ懸テ衡ヲ釣リ既ニ各種ノ分銅ヲ掛ケ終レハ更ニ前緒并元緒、錘緒元緒共ニ之ヲ掛ケテ試驗スルニ直點及何レノ量點ニ於テモ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ直點及各量點ヲ正當トシ乃チ其器ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ上緒、錘緒元緒ノ中、錘釣ル所ノ衡水平ナラス左右偏重ヲ生スル者アリキハ其直點又ハ其量點ヲ不正トシ乃チ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ桿秤其検査法皆之ニ準スヘシ

但秤秤種類量二貫匁ニ過クル者ハ三十二貫匁掛二十六貫匁掛十六貫匁掛十一貫匁掛六貫匁掛三貫匁掛五百匁掛ノ六種ナリ然ルニ分銅ノ原器其量二貫匁ニ止マレハ大小ノ量點其半ハヲ試驗スルニ足ラス故ニ此六種ノ秤ニハ掛出ノ量點ヨリ二貫匁ノ量點迄試驗既ニ終レハ二貫匁ヨリ數十貫匁ニ至ル其時ノ量點ハ試驗之ヲ略スヘシト雖モ上緒并元緒ノ極點、上緒并元緒最重ノ量點假令ハ三十二貫匁掛秤ハハヲ試驗スル爲メ分銅原器ニ準レテ逐テ四貫匁ノ分銅八個ヲ製シ之ヲ假原器トシ而シテ或ハ原器種類ヲ相併セ或ハ假原器數個ヲ相併セ或ハ原器種類ト假原器數個トヲ相併セ各秤ニ掛ケテ上緒并元緒ノ極點ヲ試驗スルノ假令ハ三十二貫匁掛秤ニハ假原器四個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試驗シ假原器八個相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試驗シ六貫匁掛秤ニハ二貫匁ノ原器一個一貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試驗シ假原器一個二貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試驗シ都テ其極點ノ量ノ如ク原器假原器ヲ相併交加シテ之ヲ掛ケ本文ニ示ス法ノ如クシテ之ヲ試驗シ以テ其器ノ正否ヲ判スヘシ右四貫匁ノ分銅假原器ハ銅或ハ鉛ヲ以テ之ヲ製スヘシ然シテ其形狀ノ如キハ隨意タリト雖トモ其量製作法ハ先ツ二貫匁ノ分銅原器二個相併セ合量四貫匁トシ銅或ハ鉛凡四貫匁ノ量ヲ以テ之ニ對シ天秤ヲ以テ之ヲ量ルコト其法次分銅検査ノ條ニ説ク如クタルヘシ然シテ銅或ハ鉛其量輕重アルモノハ之ヲ増減シテ二貫匁ノ原器二個ト等量ナラシメ以テ之ヲ四貫匁ノ假原器ト定ムヘシ

度量衡


但分銅ヲ掛クルニ緒紐ノ類ヲ以テ之ヲ掛ノニハ其緒紐ノ類ハ所謂風袋ニテ全ク量外ナルカ故ニ別ニ之ヲ量テ量數ト分ツヘシ

天秤検査

天秤ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板敷又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルキハ片板ヲ假リ之レヲ矯メテ水平ナラシメ然シテ分銅ノ原器ヲ其左右ノ皿ニ掛クルヲ假令ハ左ニ百匁ノ分銅一個ヲ掛ケ右ニ五十匁ノ分銅一個二十匁ノ分銅二個十匁ノ分銅一個ヲ掛ケ左右等量ナラシメ（左右ノ皿ニ掛クル分銅ノ量ハ充分重量ヲ要ス然レモ天秤ノ大小ト分銅種類組合ノ便宜トニ隨テ適宜ニ増減スヘシ）然シテ其針口ノ盛搖ヲ銳クシカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其鈞銅  箱ノ柱ニ掛テケ天秤ヲ鈞ノ甲所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ試驗スルニ其針口上下正區ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其器ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下相接セス其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スル者ハ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

分銅検査

分銅ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ト天秤ノ原器トヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板敷又

ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤蓋ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルトキハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然シテ検査スル所ノ分銅ヲ其左皿ニ掛ケ之ト同量ナル分銅ノ原器ヲ其右皿ニ掛ケ然シテ其針口ノ盛搖ヲ銳クセンカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其鈞銅  箱ノ柱ニ掛テケ天秤ヲ鈞

ノ甲所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ試驗スルニ其針口上下正區ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキトキハ検査スル所ノ分銅之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下相接セス其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スルトキハ検査スル所ノ分銅之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

明治八年 月

○尺度検査ニ關スル件

明治八年十一月十日

大藏省達乙第百四十七號

尺度検査ノ儀先般公達度量衡検査規則ノ通り舊新器共渾發相用候筈ニ有之候處右舊新器共日廉價ノ器品ノ如キ多數輻濫ノ際ニハ渾發相用候儀或ハ略之其検査スル所ノ尺度ヲ以テ舊ニ原器ニ相當テ検査候テ不苦尤右検査ノ上其器ノ正否ニ就テ檢印捺否候等ハ總テ検査規則ノ通リ可相心得此旨更ニ相達候事

但本文尺度渾發ノ儀ハ先般相渡候員數二箇ノ外爾後ハ不相渡候條尙需用ノ分ハ各官

應ニ於テ製作可致事

○西洋形權衡検査手續

明治二十五年十一月十二日
農商務省訓令第三十五號

北海道廳 府 縣

度量衡法第二十一條ノ規定ニ適用スヘキ從來西洋形權衡検査手續ハ左ノ如シ

西洋形權衡検査手續書

一検査ノ際錘ノ量ヲ増減スルニ便ナラシメンカ爲メ豫メ錘ノ上面若クハ測面ニ穴ヲ穿テ鉛屑ヲ納メテ螺旋ヲ以テ其口ヲ塞キ置クヘシ而シテ検査印ハ其螺旋ノ合目ニ打込ムヘシ

但錘質鐵ナレハ上面若クハ側面ノ一部ニ黃銅片ヲ埋メ茲ニ穴ヲ穿テ其内ニ鉛屑ヲ納ムルコトヲ本文ノ如クスヘシ又錘形小ニシテ穴中ニ鉛屑ヲ納ムルコト充分ナラサルモノハ穴ハ唯錘量ヲ増ス上ニ鉛ヲ納ムルノ豫備ニ供スルノヨリテ初ヨリ鉛屑ヲ納メ置カス而シテ其量ヲ減セントスルトキハ錘ノ底面ヲ削リ取り然ル後検査印ヲ捺スヘシ

一検査ノ際増錘ノ量ヲ増減スルニ便ナラシメンカ爲メ豫メ錘ノ表面ニ穴ヲ穿テ鉛屑ヲ納メ螺旋ノ合目ニ打込ムヘシ

但増錘ノ質鐵ナレハ表面ニ黃鐵ヲ埋メ云々前項但書ノ如シ
一増錘ヲ載スル蓋モ亦増錘ト同シ

一増錘ヲ附スル權衡ノ検査ハ第一星點量ヲ檢シ第二最大星點量ニ於テ感シテ檢シ第三各錘ヲ懸ケテ其量ヲ檢スヘシ

第二ノ感シテ檢スルニハ最小目盛リ量ニ均シキ分銅ヲ以テ之ヲ檢スヘシ
但磅秤ニアリテハ其最大星點量ヲ檢スルトキ検査分銅ヲ逐次量ノ四隅ニ轉置シテ桿ノ水平ヲ檢スヘシ

○一斗秤使用ニ關スル件
明治十九年三月廿四日
農商務省令第二號

一斗以上ヲ授受スルノ際一斗秤ヲ用ヒサルトキハ其授受書ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得

○度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣ノ免許並其檢定ニ關スル規則
明治二十四年八月十八日
勅令第百七十七號
朕度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣ノ免許並其檢定ニ關スル規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 度量衡器ノ種類形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

度	器
形	狀
物	質
種	類
直	尺
七	尺以下
二	メートル以下

度量衡

圓											
屬					金						
一合	五勺	一斗	五升	二升	一升	五合	二合五勺	二合	一合	五勺	二勺
二〇、三	一六、〇	九三、八〇	七四、四五	五四、八六	三四、五六	二七、四三	二二、七七	二〇、二二	一六、〇四	一二、七三	九、三六
六四八二、七〇	三三三、三三	六四八二七〇、〇〇	三三三三三、〇〇	一二九六五四、〇〇	六四八二七〇、〇〇	三三三三三、五〇	一二九六五四、〇〇	六四八二、七〇	三三三、三三	一二九六、五四	二二、七三
「デシリットル」	「デシリットル」	「リットル」	「リットル」	「リットル」	「リットル」	「リットル」	「デシリットル」	「デシリットル」	「デシリットル」	「センチリットル」	「センチリットル」
六三、四	五、〇	二九四、二	二三、五	一八五、三	一〇八、四	八六、〇	六八、三	五〇、三	三九、九	三一、七	二三、四
〇、一〇	〇、一〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	〇、五〇	〇、一〇	〇、一〇	〇、〇五	〇、〇二

形状	物質	種類	寸法	容積	種類	寸法	容積	量器	樹	
									寸法	容積
鏈狀	金	屬	鏈尺	六十尺	六十尺	六十尺	六十尺	牙、骨、竹、木	鯨尺	一尺
細帶狀	金	華麻布屬	卷尺	百尺以下	百尺以下	百尺以下	百尺以下	骨、竹、木	曲尺	長枝二尺以下
									疊尺	十五尺以下
										二尺
										三尺

礱											
楡				銀杏				煙子松			
二合	二合五	五合	一升	五勺	二合	二合五	勺	一升	一升	二升	五升
二五、四六	二七、四三	三四、五六	四三、五六	一六、〇四	二〇、二一	二五、四六	二七、四三	三四、五六	四三、五六	五四、六六	七四、四五
一二六、五、四〇	一六二、〇六、七五	三三四一、三五〇	六四八二、七〇〇	三三四一、三五〇	二九六五、四〇〇	一六二〇六、七五	三三四一、三五〇	二九六五、四〇〇	一六二〇六、七五	一二九六五、四〇〇	三三四一、三五〇
五「デシリットル」	一「リットル」	二「リットル」	二「デシリットル」	一「デシリットル」	二「デシリットル」	一「リットル」	一「リットル」	二「リットル」	一「リットル」	十「リットル」	二「リットル」
六六、〇	一〇八、四	一三六、六	一八五、三	八六、〇	六三、四	一〇八、四	一〇八、四	一三六、六	一〇八、四	二二三、五	二九四、二
〇、五〇	一、〇〇	一、〇〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、一〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇

形											
楡					玻璃						
二合	二合五	五合	一升	一斗	一合同	二合同	二合同五	勺	五合同	一升	一斗
二六、六六	二〇、五〇	二六、六六	二二、〇〇	九三、六〇	一六、〇〇	一六、〇〇	一六、〇〇	一六、〇〇	一六、〇〇	一六、〇〇	九三、六〇
一二九六五、四〇	一六二〇六、七五	一二九六五、四〇	六四八二、七〇	六四八二、七〇〇	六四八二、七〇〇	三三四一、三五〇	一六二〇六、七五	三三四一、三五〇	三三四一、三五〇	三三四一、三五〇	六四八二、七〇〇
二「リットル」	一「リットル」	二「リットル」	一「リットル」	一「デシリットル」	二「デシリットル」	二「リットル」	一「リットル」	二「リットル」	二「リットル」	一「リットル」	一「デシリットル」
〇、五〇	一、〇〇	〇、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

秤	線狀		板狀		形臺及形		圓		形狀	
	同(鐵ヲ除ク)		同(鐵ヲ除ク)		銅鑲、銅青銅、白銅、洋銀、白銀、洋銀、白銀、洋銀、白銀		銅鑲、銅青銅、白銅、洋銀、白銀		白金、金、銀、アルミニウム	
	一分	二分	一厘	二厘	五厘	一釐	二釐	五釐	一毫	二毫
	五分	一分	一毛	二毛	五毛	一匁	二匁	五匁	一忽	二忽
	一「デシグラム」	二「デシグラム」	一「ミリグラム」	二「ミリグラム」	一「センチグラム」	二「センチグラム」	一「キログラム」	二「キログラム」	一「グラム」	二「グラム」
	五「デシグラム」	一「センチグラム」	五「ミリグラム」	一「センチグラム」	五「キログラム」	一「キログラム」	五「グラム」	一「グラム」	五「グラム」	一「グラム」

形	圓		形狀	物質	斗概	形						
	木					銀杏、姫子銀						
材	大	中	小	種	類	寸	法	一升	二升	五升	一斗	
	十「リットル」	五升	自「リットル」	自五合	自五勺	至二合五勺	徑七分	長四分	四九、〇〇	六一、七四	八三、四〇	一〇五、〇〇
	二十「リットル」	一斗	自「リットル」	至二升	至五「リットル」	徑七分	長四分	六四八、二七、〇〇	二九六、五四、〇〇	三三四、三五、〇〇	六四八、二七、〇〇	

物	價	種	類
金屬		天秤	
金屬		臺秤	
金屬、象牙、骨、黑檀、紫檀、樅、		桿秤	

第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ之ヲ檢定シ爾後五年目毎ニ之ヲ檢定ス

第三條 度量衡器ノ公差ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ分銅ハ内減ヲ許サス

度量器ノ公差

全長	金屬製	竹、木、骨、象牙製	全長	金屬製	竹、木、骨、象牙製
一尺未滿	0.50	1.00	「センチメートル」未滿	0.2	「ミリメートル」
一尺以上	0.75	1.50	「センチメートル」以上	0.3	「ミリメートル」
二尺未滿	1.00	2.00			
二尺以上	1.50	3.00			
三尺未滿	2.00	4.00			
三尺以上	3.00	6.00			

全長	草及麻布	全長	草及麻布
五尺以上	5.00	「メートル」以下	3.00
二尺以上	10.00	「メートル」以上	2.50
三十尺以上	10.00	全長ノ千分ノ一	
三十尺以上	2.00		
一尺	2.00		
二尺	4.00		
三尺	4.00		

全長	草及麻布	全長	草及麻布
三尺以下	1.00	十二尺以下	3.00
六尺以下	2.00	十八尺以下	4.00
十尺以下	2.50	三十尺以下	6.00
六十尺以下	11.50		
六十六尺以下	13.00		
九十尺以下	16.00		

百尺以下	一六、〇二「メートル」以下	三五、〇
一「メートル」以下	「ミリメートル」 三〇、三 二十「メートル」以下	五、〇
量器容器及寸法ノ公差		
量器（各種ノ木製、鐵葉製ノモノ及二升又ハ五「リットル」以上ノ金屬製ノモノ）ノ容量		
一升以下	一厘	全量ノ百五十分ノ一
二升以上	二厘	
量器（玻璃製ノモノヲ除ク）ノ徑及方		
一升以下	「ミリメートル」	
二升以上	「ミリメートル」	
五「リットル」以下	「ミリメートル」	
各種斗概ノ徑及長サ		
一分		
量器（鐵葉製ヲ除キ他ノ金屬製一升）水量ノ公差		
一 勺	〇、〇五 一「センチリットル」	「グラム」 〇、一
二 勺	〇、〇五 二「センチリットル」	〇、二

五 勺	〇、一〇 五「センチリットル」	〇、三
一 合	〇、二〇 一「デシリットル」	〇、五
二 合	一、〇〇 二「デシリットル」	一、〇
二 合五 勺	一、〇〇 五「デシリットル」	一、〇
五 勺	一、〇〇 一「リットル」	四、〇
一 升	二、〇〇 二「リットル」	五、〇
量器（玻璃製ノモノ）水重ノ公差		
五 勺	〇、三〇 一「デシリットル」	「グラム」 一、〇
一 合	〇、五〇 二「デシリットル」	二、〇
二 合	一、〇〇 五「デシリットル」	五、〇
二 合五 勺	一、〇〇 一「リットル」	七、〇
五 合	一、五〇 二「リットル」	一三、〇

一	升	三、〇	
衡器ノ公差			
分銅 五分		〇、〇〇五 ^分	一「グラム」以上
分銅 一匁以上 五匁マテ		〇、〇一〇	五「グラム」マテ
分銅 十匁又ハ 十「グラム」以上		全重ノ千分ノ一	
分銅 五分又ハ 一「グラム」未滿		全重ノ百分ノ一	
目盛	一度目ノ二分一ニ細嚮スル重サ		

度器ノ各目盛ノ公差ハ前項定限ノ二分ノ一トス

第四條 檢定スヘキ度器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ量器ハ其ノ全量ノ外他ノ目盛ヲ檢定セス

度器ノ目盛

- 一 五厘 (一尺以下ノ度器)
- 一 分 (十尺未滿ノ度器)
- 一 寸 (十尺以上ノ度器)

釐尺一分

(各種釐尺度器)

- 一「ミリメートル」
- 五「ミリメートル」
- 五「センチメートル」
- 一厘
- 一「センチグラム」

第五條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス

第六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シテ製作、修覆ヲ願出ル者

- 一 製作場修覆ノ位置及構造
- 二 製作、修覆セントスル度量衡器ノ種類形狀及物質
- 三 資本金
- 四 製作、修覆ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其職業別並ニ諸器械ノ種類

販賣ヲ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼ヌル者

- 一 販賣所ノ位置及構造

二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形状及物質
 三 資本金
 四 販賣セントスル度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ輸入者ノ住所姓名及營業所
 農商務大臣前項營業ノ設計ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ願書ヲ却下スヘシ
 第七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者其ノ營業ノ設計ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由レ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第八條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ
 度量器、量器又ハ衡器ノ製作 金拾五圓
 度量器、量器又ハ衡器ノ修覆 金拾貳圓
 度量器、量器又ハ衡器ノ販賣 金五圓
 第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受クルモノハ左ノ檢定料ヲ納ムヘシ
 二段以上目盛シタル度量器ハ一段毎ニ其ノ檢定料ヲ納ムヘシ

檢定料

度量器	
一尺以下(二分目)	0.5
一尺以下(五厘目)	1.0

竹、	三尺以下(一分以上ノ目)	1.0
	十八尺以下	4.0
	三十尺以下	2.0
骨、	六十尺以下	1.5
	百尺以下	1.5
象牙	半「メートル」以下	1.5
	一「メートル」以下	4.0
	五「メートル」以下	5.0
	十「メートル」以下	10.0
	二十「メートル」以下	10.0
	三十「メートル」以下	10.0
草	鯨尺一尺	0.5
麻		

度量衡

布		金																					
鯨尺二尺	一、〇	鯨尺三尺	一、〇	一尺以下	二、五	三尺以下	二、五	七尺以下	五、〇	十八尺以下	五、〇	六十尺以下	二、五、〇	百尺以上	五、〇、〇	曲り尺各種	三、五	半「メートル」以下	五、〇	一「メートル」以下	六、〇	二「メートル」以下	七、五

属																													
五「メートル」以下	七、五	二十「メートル」以下	三、五、〇	三十「メートル」以下	五、〇、〇	鯨尺一尺	二、五	鯨尺二尺	二、五	鯨尺三尺	二、五	量器				檜、楫	二合五勺以下	一、〇	銀杏	二升以下	二、〇	姫子松	五升	三、五	鐵葉	一斗	五、〇	二合五勺以下	三、〇

金葉鐵	鐵葉	姫子松	銀杏	檜楫	斗概	玻璃	屬	金葉鐵
一「リットル」以下	五「リットル」以下	五「リットル」	五「リットル」以下	五「テシリットル」以下	各種	一斗	一升以下	四、〇
二「リットル」以下	十「リットル」	十「リットル」	二「リットル」以下	五斗		二升	三、〇	
五「リットル」	二十「リットル」	二十「リットル」	五「リットル」以下	一斗		五升	五、〇	
								七、五
								〇、五
								一、五
								二、〇
								三、〇
								四、〇
								六、〇
								三、五
								五、〇

銅	分	衡器	玻璃	屬
五十分未滿	二十分以下	衡器	五「リットル」	四、〇
五百匁以下	五百匁以下		十「リットル」	六、〇
一貫以上	一貫以上		二十「リットル」	八、〇
一「グラム」未滿	一「グラム」未滿			四、〇
五「グラム」以下	五「グラム」以下			八、〇
一「キログラム」以下	一「キログラム」以下			一五、〇
				二、〇
				五、〇
				四、〇

秤	臺	天秤
一「キログラム」以下	一箇	二〇
二「キログラム」以上	一箇	五〇
一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ		五〇
其ノ他ノモノ		二〇
五十貫以下		五〇
百五十貫以下		一〇〇
以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ		
二百「キログラム」以下		五〇
五百「キログラム」以下		一〇〇
以上三百「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ		
二貫以下(自盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)		四〇
二貫以下(自盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)		六〇

秤	
二貫ヲ超ヘハ貫未滿	一〇〇
七貫以上三十貫マテ	二〇〇
以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	
七「キログラム」以下	六〇
七「キログラム」ヲ超ヘ百「キログラム」マテ	二〇〇
以上十「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	

第十條 第八條ノ免許料及第九條ノ檢定料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
 第十一條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

- 度量衡器製作 金三百圓
- 量器製作 金三百圓
- 衡器製作 金三百圓
- 木材、象牙、骨製桿秤 金三百圓
- 天秤、分銅、臺秤及金屬製桿秤 金五百圓

度量衡修覆

量器修覆

衡器修覆

金二百圓
金二百圓

木材、象牙、骨製桿秤

金二百圓

天秤、分銅、磅秤及金屬製桿秤

金三百圓

度量衡販賣

金百圓

量器販賣

金百圓

衡器販賣

金百圓

○度量衡檢定所地方原器檢定用具檢定補助用具及度量衡檢定成績表ニ關スル規程
明治二十四年八月十九日
農商務省訓令第三十五號

北海道廳 府 縣

度量衡檢定所地方原器檢定用具檢定補助用具及度量衡檢定成績表ニ關スル規程左ノ通
定ム

第一條 常置度量衡檢査所ハ火災ノ虞少ナク氣温ノ外成ルヘク温度ノ劇變ナキ乾燥靜
穩ナル場所ヲ撰フヘシ

第二條 特設度量衡檢定所ハ官廳公署其ノ他便宜ノ場所ヲ以テ之ニ充ツヘシ
第三條 度量衡器ヲ檢定スル場所ハ散キ土間其ノ他堅牢ニシテ平坦ナル土間ヲ用ヰル

ヘシ

第四條 地方原器ハ濕氣少ク温度ノ劇變火災及塵埃ヲ避クヘキ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据
ヘテ其上ニ平置シテ保管スヘシ

第五條 地方原器ヲ使用スルトキハ成ルヘク其ノ保管シアル場所ニ於テシ且ツ直接ニ
手ヲ觸レサル様注意スヘシ

第六條 地方長官ハ農商務大臣ノ指揮ニ從ヒ地方原器ノ檢定ヲ受クヘシ但シ臨時檢定
ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シテ農商務大臣ニ申請スヘシ

第七條 農商務大臣ハ附録第一號ノ檢定用具ヲ地方長官ニ交付スヘシ

第八條 檢定用具ノ修補引替若ハ増加ヲ要スルトキハ地方長官其ノ事由ヲ具シ農商務
大臣ニ請求スヘシ

第九條 檢定用具ハ特設檢定所ニ設テ用ヰル時ノ外常置檢定所ニ備ヘ置クヘシ

第十條 地方長官ハ毎年檢定用ニ供スル度量衡器ヲ檢定スヘシ

第十一條 地方長官ハ附録第二號ノ檢定補助用具ヲ備フヘシ

第十二條 地方長官ハ左ノ書式ニ依リ前年四月ヨリ前年三月ニ至ル一箇年間ノ度量
衡檢定成績表ヲ調製シ毎年五月十日マテニ農商務大臣ニ報告スヘシ
地方長官ハ桿秤ノ取替ノ修覆ヲナシタル箇數ヲ各製作所修覆所及販賣所ニ區別シ額
項ニ定ムル期限ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

(用紙美濃)

自何年何月 至何年何月 度量衡檢定報告

應府縣

檢定料計	曲 リ 尺	鯨 尺	鏈 尺	卷 尺	疊 尺	直 尺	種別	
							尺	別
			「メートル」	「メートル」	「メートル」	「メートル」	合	箇
							格	不
							合	數
							格	格

度量衡

天 秤	分 銅	種 別	衡 器	檢定料計	斗 櫛	計	圓 錐 形	金 屬	形 狀	物 質	種 別	合	
												箇	格
	貫											合	箇
	「キログラム」											格	不
												合	數
												格	格

臺秤	貫	「キログラム」		
木桿秤	貫	「キログラム」		
金屬桿秤	貫	「キログラム」		

計

檢定料計

右度量衡器檢定ノ成績報告候也

年月日

農商務大臣宛

北海道長官 府縣知事 印

附録第一號

檢定用具

一第一直尺

長サ三尺ト四厘トシ其ノ三尺ハ一分目一端ノ一尺ハ五厘目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外四厘ニハ五毛目ヲ附ス

一第二直尺

長サ一「メートル」ト一「ミリメートル」トシ其ノ一「メートル」ハ一「ミリメートル」

目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外一「ミリメートル」ニハ十分ノ二「ミリメートル」目ヲ附ス

一鯨尺

長サ鯨尺二尺ト六厘トシ其ノ二尺ハ鯨尺一分目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外鯨尺六厘ニハ鯨尺二厘目ヲ附ス

一第一卷尺

長サ十八尺ト四分六厘トシ其ノ十八尺ハ一寸目一端ノ六尺ハ一分目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外四分六厘ニハ二厘目ヲ附ス

一第二卷尺

長サ五「メートル」ト十五「ミリメートル」トシ其ノ五「メートル」ハ五「センチメートル」目一端ノ一「メートル」ハ一「ミリメートル」目其ノ次ノ一「メートル」ハ五「ミリメートル」目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外十五「ミリメートル」ニハ十分ノ五「ミリメートル」目ヲ附シ一端ノ内外八「ミリメートル」ニハ二「ミリメートル」目ヲ附ス

一第一量器

自一斗至一勺

一第二量器

度量衡

- 自二十「リットル」至一「センチリットル」
- 一第一分銅
- 自五貫至一毛ノヤ分ノ一
- 一第二分銅
- 自二十「キログラム」至一「ミリグラム」
- 一大形天秤
- 秤量、貫量五分
- 一中形天秤
- 秤量一貫或量一厘
- 一小形天秤
- 秤量五十分或量一毛ノ十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ十分ノ一
- 一度器檢定器
- 一量器檢定器
- 一重サ増定補助具
- 一顯微鏡
- 一水準器
- 一證印

- 一證 燭
- 一消 印
- 一牽 號印
- 一關 府縣印
- 附錄第二號

檢定補助用具

- 一秤架 (支柱ナキ天秤及桿秤ヲ懸タルニ用ヰルモノ)
- 第一秤架 第一圖ノ如シ(圖形略ス以下倣之)
- 第二秤架 第二圖ノ如シ
- 第三秤架 第三圖ノ如シ
- 一取緒鉄 (桿秤ノ取緒ヲ鉄ニテ之ヲ釣ルニ用ヰルモノ)
- 第二秤架ニ附属スルモノ 第三圖ノ如シ
- 第三秤架ニ附属スルモノ 第五圖ノ如シ
- 一秤盤 (小形ノ天秤及支柱アル桿秤ノ書狀掛ケノ類)ヲ載スルニ用ヰルモノ)
- 第六圖ノ如シ
- 一鉛丸 (分銅ヲ檢定シ又ハ水重ヲ以テ量器ヲ檢定スルニ用ヰルモノ)
- 一鉛板 (前同様ノ場合ニ換テ適宜削リ取リ小片トナシテ用ヰルモノ)

度量衡

一 精粟 量器ノ容量ヲ檢定スルニ用井ルモノ)

一 粟注 (粟ヲ量器ニ容ルヽニ用井ルモノ) 第七圖ノ如シ

一 水注 (水重ヲ以テ量器ヲ檢定スルトキ水ヲ量器ニ注入スルニ用井ルモノ)

一 吸水管 (前同様ノ構造ニ於テ少量ノ水ヲ注クニ用井ルモノ) 第八圖ノ如シ

一 机 (度量檢定及天秤其ノ他檢定スル所ノ器物ヲ載スルニ用井ルモノ)

第九圖ノ如シ

一 打印盤 (檢定ノ印ヲ附スルニ用井ルモノ) 第十圖ノ如シ

一 錘 前同様 第十一圖ノ如シ

一 烙印ノ柄 第十二圖ノ如シ

一 右ノ外檢定ノ執行ニ要スル物品

○ 度量衡檢定規程 明治二十五年七月七日 農商務省訓令第二十二號

度量衡檢定規定左ノ通之レヲ定ム

度量衡檢定規程

第一章 檢定スヘキ度量衡器並檢定ノ方法

第一條 檢定スヘキ度量衡器ハ明治二十四年法律第三號度量衡法勅令第七十七號度量衡器ノ制限其ノ製作修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則及農商務省令第十

號度量衡法施行規則ノ規定ニ遵由レタルモノニ限ル

第二條 度量衡器ノ檢定ハ左ニ掲ル三回ノ検査ヲ經ルヲ要ス

第一 度量衡器檢定請求書ノ當否ノ検査

第二 度量衡器ノ種類形状物質及構造ノ検査

第三 度量器ノ目盛量器ノ寸法及容量衡器ノ感量目盛及重量ノ検査

第三條 第一回検査ニ於テハ度量衡法第三條第四條第五條及度量衡法施行規則第二條第三條ノ規定ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス

第四條 第二回検査ニ於テハ度量衡器ノ制限其製作修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則第一條及度量衡法施行規則第二章(第十五條第二十一及第二十四條ヲ除

ク)ノ規定ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス

第五條 第三回検査ニ於テハ度量衡器ノ制限其製作修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則第三條第四條及本規則第二章ノ規定ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格ト

シ其他ハ不合格トス

第六條 卷尺及鍍尺ヲ検査スルニハ檢定用卷尺ヲ用井其ノ他ノ度量器ヲ検査スルニハ檢定用直尺若クハ鍍尺ヲ用ウヘシ

第七條 検査用直尺又ハ鍍尺ヲ用井ルトキハ其ノ目盛ヲ施シタル邊ヲ檢定スル者ノ方ニ向ケ箱ノ儘度量器檢定臺(第一圖)ノ後段「甲」「乙」ニ載セ蓋縁ニ附シタル抑へ具「丙」

「丁」「戊」ヲ以テ其ノ移動ヲ防クヘシ

第八條 度器ノ目盛ヲ檢スルニハ其ノ檢定スヘキ各最小目盛ヲ之ニ相當スル檢定用度器ノ目盛ニ對照スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受檢器ノ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤ナク且ツ兩度器ノ各目盛線互ニ並行シテ一致ズルカ又ハ一致セサルモ其公差以內ニ在ルモノヲ合格トスヘシ
一器ニ二段以上ノ目ヲ盛リタルモノハ其一段毎ニ目盛ヲ檢査スルヲ要ス

第九條 卷尺ヲ除キ他ノ度器ノ目盛ヲ檢査スルニハ顯微鏡ヲ用ルヲ要ス但シ其ノ構造ニ因リ顯微鏡ヲ用ル難キモノハ此ノ限ニ非ス

第十條 度器ノ構造ニ因リ其目盛ヲ檢定用度器ノ目盛ト適合セシメ難キモノハ目渡シ器(第二圖)ヲ用ルヲ檢査スヘシ

第十一條 直尺又ハ鯨尺ノ全長及目盛ヲ檢査スルニハ受檢度器ヲ度器檢定臺ノ前段「己」庚ニ載セ其ノ構造ニ因リ載セ難キモノハ前段ノ上部ヲ撤去シ之ヲ其下段「辛」「壬」ニ載セ其ノ目盛ヲ檢定用度器ノ目盛ト同ク高サニ於テ對照セシメ本條第二項若ハ第三項ノ手續ヲ行フヘシ但シ玉尺(球圓端等ノ徑ヲ度ル直尺)ハ其ノ全長及目盛ヲ檢査シタル後更ニ第十二條ノ手續ニ依リ其ノ内直角ヲ檢査スルヲ要ス

受檢度器ノ全長檢定用度器ニ均シキ種類ノモノハ兩器ノ左方目盛ノ起線ヲ正シク合セ又受檢度器ノ全長檢定用度器ヨリ短キ種類ノモノハ受檢度器ノ左方目盛ノ起線ヲ檢定用度器ノ右方ヨリ數ヘタル受檢度器ノ全長相當ノ目盛線ニ正シク合セ受檢度器ノ目盛ヲ左方ヨリ右方ニ及ホシ逐次之ニ相當スル檢定用度器ノ目盛ニ對照シ又其

ノ全長ヲ右端ノ目盛線ニ對照シテ其ノ差ヲ規定シ之ヲ目盛及全長ノ公差ニ照校スヘシ
受檢度器ノ全長檢定用度器ヨリ長キ種類ノモノハ檢定用度器ニ相當スル長サ毎ニ及其ノ殘餘ノ部分ニ就キ前項ノ手續ヲ行ヒ毎次視定シタル差ヲ差引キシタルモノヲ全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照校スヘシ

第十二條 曲リ尺ハ前條第一項及第二項ノ手續ニ依リ兩枝ノ全長及目盛ヲ檢査シ其ノ合格シタルモノハ更ニ其ノ内外二角ヲ檢査スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ抑ヘ具ヲ用ルヲ要セス

角ヲ檢査スルニハ平板面又ハ厚紙面ニ兩脚規ヲ以テ直角ヲ畫キ之ニ受檢度器ノ内外二角ヲ照校シ俱ニ正シク合ヒタルモノヲ合格トスベシ

第十三條 疊尺ハ之ヲ延長シテ第十一條ノ手續ニ依リ其ノ全長及目盛ヲ檢査スヘシ但シ其ノ目盛ノ同一平面ニ在ラサルモノハ之ヲ構成スル各直尺毎ニ其ノ目盛ヲ檢査シ次項ノ手續ニ依リ其ノ全長ヲ檢査スヘシ

首位ノ直尺ハ其ノ全長ヲ檢シ次位以下ノ各直尺ハ其ノ前位ニ在ル直尺ノ最終目盛線ト接續スヘキ目盛線ヨリ他ノ一端ノ最終目盛線マテノ寸法ヲ檢シ其ノ各接續部ニ於テ一致スヘキ兩直尺ノ目盛線一致セサルトキハ其ノ差ヲ視定シ之ト各直尺ニ就テ視定シタル差ヲ差引キシタルモノヲ疊尺全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照校スヘシ

第十四條 卷尺又ハ鏈尺ノ全長及目盛ヲ検査スルニハ檢定用度器ノ目盛ヲ施シタル邊ヲ検査スル者ノ方ニ向ケ拘臺抑臺(第二圖)ヲ用ヰテ之ヲ其ノ間ニ渡シ張り下部ニ木片ヲ布キ水平ヲ保タシメ鎮子ヲ其臺ニ載セ更ニ他ノ抑臺拘臺ヲ前ノ拘臺抑臺ニ並ヘ之ヲ用ヰテ受檢度器ヲ渡シ張り檢定用度器ト相接シテ並行セシメ鎮子ヲ其ノ臺ニ載セ俱ニ第十一條第二項第三項ノ手續ニ依ルヘシ

第十五條 量器ハ量器用尺(第四圖)ヲ用ヰテ其ノ寸法ヲ検査シ木材製鐵葉製及二升又ハ五「リットル」以上ノ金屬製ノモノハ善ク乾キテ粒ノ揃ヒタル精粟ヲ其ノ他ノ量器ハ善ク澆シテ清潔ナル冷水ヲ用ヰテ其ノ容量ヲ検査スヘシ

第十六條 量器ノ寸法ヲ検査スルニハ其ノ形狀ニ應ジ左ノ手續ニ依ルヘシ

- 一 方形量器ハ第二量器用尺ノ「甲」ヲ逐次四隅ニ當テ各方ノ寸法ヲ觀定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ
 - 二 圓形量器ハ第一若ハ第二量器用尺ノ「甲」又ハ「乙」ヲ逐次内面ニ箇所以上ニ當テ徑ノ寸法ヲ觀定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ
 - 三 斗概ハ之ヲ平板上ニ轉轉シテ其ノ面ニ密着セサルモノハ不合格トシ其密着スルモノハ更ニ側面及切口ヲ第三量器用尺ノ内直角ノ二邊ニ當テ「丙」及「乙」ノ目盛ニ依テ其ノ徑ト長サトヲ觀定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ
- 第十七條 量器檢定臺ハ粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢定セントストキ土間ニ据ヘテ用

井ルモノトス

檢定斗概及漏斗ノ注口ハ受檢量器五升又ハ十「リットル」以上ノモノニハ其ノ大ヲ五合又ハ一「リットル」以上ノモノハ其中ヲ二合又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ其ノ小ヲ用ヰルヘシ

第十八條 粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ検査スルニハ逐次左ノ四段ノ手續ヲ行フヘシ

- 一 受檢量器ニ相違スル檢定用量器及容量比較器(第五圖)ノ甲ヲ量器檢定臺(第五圖ノ乙)上適宜ノ位置ニ据ヘ其上位ニ漏斗ヲ裝置シテ粟ヲ注クノ用ニ供スヘシ漏斗ノ高サハ斗概ヲ使用スルニ差支ナキヲ度トシ且ツ檢定用量器ト受檢量器ノ深サ相同シキ場合ニ於テハ漏斗ノ下口ヨリ兩量器ノ内底面マテノ高サヲ同一ニシテ其ノ同シカラサル場合ニ於テハ其ノ深サノ差ノ二分ノ一ヲ度トシテ檢定用量器ニ對シ其ノ高サヲ増スヲ要ス
- 一斗及五升二十「リットル」及十「リットル」ノ容量比較器ハ函ニ裝置シタル儘使用スヘシ

二 粟粒ヲ量器上ノ漏斗ニ盛リ其ノ下口ヲ開テ之ヲ量器ニ注入セシメ之ニ相當スル檢定用斗概(第六圖)ノ稜「甲」「乙」ヲ検査スル者ノ方ニ向ケ靜ニ量器ノ一隅ニ當テ「丙」ノ面ヲ下ニ向ケ少シク斜メニ置メテ輕快ニ之ヲ引キ其ノ上面ニ餘リタル粟粒ヲ拂ヒ去ルヘシ此場合ニ於テ量器ノ縁ニ尙粟粒ノ殘留スルカ又ハ斗概ト量

器ノ衝突若ハ其ノ他ノ原因ノ爲ニ量器ヲ震動シタルキハ更ニ其ノ施行ヲ新ニス
ヘシ但シ使用ニ要スル粟粒ノ量ハ方形ノ受檢量器ニ在テハ五割増圓形ノモノニ
ハ三割増トスヘシ

三 量器ノ粟粒ヲ容量比較器上ノ漏斗ニ盛り移シ其ノ下口ヲ開テ之ヲ容量比較器ニ
注セシメ其ノ粟ノ上面ニ當ル目盛ヲ視定スヘシ但シ粟粒ヲ漏斗ニ移スニハ務
メテ器器ノ接觸漏斗ノ震動及粟粒ノ飛散ヲ防キ又便宜粟粒ヲ使用スヘシ

四 檢定用量器ヲ除キ之ニ代フルニ受檢量器ヲ以テ更ニ前三段ノ手續ヲ施行シ其
ノ前後ニ視定シタル容量比較器ノ目盛ニ依リ兩者ノ容量ノ差ヲ視定シ之ヲ其ノ
公差ニ照校スヘシ

同量ノ器ヲ檢定スルトキト雖モ每器ニ付本條ノ手續ヲ行フヘシ

第十九條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルトキハ二合又ハ五「デシリットル」以上ノモ
ノニハ檢定用大形天秤一合又ハ二「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤ヲ用フル
ヘシ但シ天秤ノ用法ハ第二十三條第三項ニ依ルヘシ

量器ニ水ヲ盛ルニハ先ツ其ノ内面ヲ濕シ次ニ水ヲ注入シ充分水ヲ含ミタル小刷毛ヲ
以テ其ノ内面ニ附着スル氣泡ヲ掃キ取リ次ニ蓋ノ一部ヲ量器ニ載セ緊壓シ徐ニ之ヲ
進メテ密閉シ若シ蓋ノ下ニ氣泡ヲ殘ストキハ更ニ少量ノ水ヲ注入シ再ヒ其ノ蓋ヲ密
閉シ其ノ外面周圍ノ水濕ヲ拭ヒ去ルヲ要ス但シ玻璃製量器ニ水ヲ盛ルニハ之ヲ水平

面上ニ置キ水ヲ注ハシ全量ノ目盛線ニ達セシメ内面ヲ善ク拭フヘシ水面ヲ日線
達セシムルニハ視線ヲ下方ノ水際ニ注キ水面ト一致セシメ水ヲ少シク、加減シテ視
定スヘシ

第二十條

水ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルニハ逐次左ノ五段ノ手續ヲ行フヘシ
一 受檢量器及ヒ之ニ相當スル檢定用量器ノ其ノ蓋ヲ除キ天秤ニ載セ其ノ輕重ヲ檢
スヘシ

二 檢定用量器受檢量器ヨリ重キトキハ之ヲ右皿ニ載セ輕キトキハ其ノ差ヨリ少シ
ク重キ鉛ヲ添ヘ之ヲ載セ又他ノ鉛ヲ受ケ皿ニ盛り之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラ
シムヘシ

三 檢定用量器ニ水盛リ之ニ公差相當ノ分銅ヲ加ヘ又他ノ鉛ヲ他ノ受ケ皿ニ盛り
之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラシムヘシ

四 右皿ノ檢定用量器分銅鉛及左皿ニ後ニ載セタル鉛ヲ其ノ受ケ皿ト共ニ撤去シ更
ニ右皿ニ受檢量器ヲ載セ之ニ鉛ヲ加ヘ左右平等ナラシムヘシ

五 受檢量器ニ水ヲ盛リ前ニ左皿ヨリ撤去シタル鉛及其ノ受ケ皿ヲ再ヒ左皿ニ載ス
ヘシ此場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモ之ニ其ノ公差二倍ニ
相當スル分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ
第二十二條 同量ノ受檢量器二箇以上ヲ引續キ檢査スル場合ニ於テハ其ノ輕重ヲ秤リ

度量衡

最も重キモノニ就テ前條各段ノ手續ヲ行ヒ其ノ他ハ同條第四段及第五段ノ手續ノミ
ヲ行フヘシ

第二十二條 玻璃製量器ヲ検査スルコトハ之ニ相當スル檢定用量器ヲ其ノ蓋ト共ニ天秤
ノ右皿ニ載セ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ第二十條第三段以下ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 衡器ハ其ノ重量目盛及感量ヲ検査ス
受檢分銅ノ種類一貫又ハ二「キログラム」以上ノモノニハ檢定用大形天秤ヲ五十匁又
ハ百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ二十匁又ハ五十「グラム」以下ノモノニハ小
形天秤ヲ用ウヘシ

檢定用大形天秤ハ第一秤架ニ懸ケ中形及小形天秤ハ机上ニ載セ其ノ臺ヲ水平ナラシ
メ俱ニ土間ニ据ヘテ用ウヘシ

第二十四條 分銅ヲ検査スルニハ其ノ公差ニ相當スル分銅ヲ檢定用分銅ニ添ヘ天秤ノ
右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ之ヲ平等ナラシメ次ニ右皿ノ分銅ヲ悉皆撤去シ之ニ受檢分
銅ヲ載スヘシ此ノ場合ニ於テ左右平等ナク又ハ右皿偏輕ヲ表スルモ之ニ其ノ公差
相當ノ分銅ヲ加ヘ平等者ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ
數箇ノ分銅ヲ合セテ一組トナシタルモノハ其ノ内ノ一箇不合格ナルトキハ其組全體
ヲ不合格トスヘシ

第二十五條 天秤ヲ検査スルニハ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

- 一 天秤ノ臺ナキモノハ秤架ニ懸クヘシ其ノ臺アルモノハ土間ニ据ヘタル机又ハ秤
臺ニ載セ難キモノハ直ニ土間ニ据ヘテ共ニ水平ナラシムヘシ
 - 二 水平ヲ得タルモノニ微振ヲ與ヘ其ノ指針正當ノ標點ヲ指スカ又ハ指サ、ルモ調
子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルトキハ之ヲ合格トスヘシ又鈞皿等ノ桿ト分離シ
得ルモノニシテ之ヲ懸クル桿ノ左右ニ符合ナキモノハ其ノ分離シ得ヘキ部分ヲ
逐次交換シ其都度平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ
 - 三 秤量ニ相當スル檢定用分銅ヲ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ其ノ分
銅及鉛ヲ左右交換シテ其ノ平等ヲ得タルモノ及平等ヲ得サルモノ其ノ傾斜度表ノ
半度目ヲ超ヘサルモノハ更ニ其感量相當ノ分銅ヲ一方ノ皿ニ載セ度表ノ設ケ
ナキモノニ在テハ其ノ感動ヲ目撃シ得ルモノ又度表ノ設ケアルモノニ在テハ一
度目以上ノ感動ヲ越スモノヲ合格トスヘシ
- 第二十六條 臺秤及臺アル桿秤ヲ検査スルニハ臺秤ハ臺脚ヲ平坦ナル位地ニ密著セシ
メテ擲ヘ桿秤ハ水平ナル秤臺ニ載セ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ
- 一 錘ヲ直點ニ懸ケ桿ヲ桿息メノ中間ニ靜メ之ニ微振ヲ與ヘ其ノ振動上下一様ナル
トキ又ハ一檢ナラサルカ若ハ桿息メニ寄著スルモ調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ
得ルモノヲ合格トスヘシ
 - 二 錘ヲ適宜五箇所以上ノ目盛ニ懸ケ尙其ノ中二三箇所ニ俟テハ隣接ノ目盛ニ懸ケ

其ノ各目盛ニ相當スル分銅ヲ臺又ハ皿ニ載セ終リニ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ之ニ相當ナル分銅ヲ逐次臺又ハ皿ノ四隅ニ移シ觀セ其ノ都度平等ヲ得ルカ若ハ平等ヲ得サルモ公差相當ノ分銅ヲ増減シテ平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ但シ皿ヲ垂下シタル桿秤ニ在テハ盛止メノ檢査ニ於テ分銅ヲ皿ノ中央ニ載セ唯一回ノ平等ヲ得ルヲ以テ足レリトス

三 増錘ナキ桿秤ハ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ平等ヲ得タルトキ最小目盛相當ノ分銅ヲ皿ニ加ヘ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ又増錘アル桿秤若ハ臺秤ハ其ノ増錘ヲ少量ノモノヨリ漸次大量ノモノニ及ホシ各別ニ桿端ニ懸ケ又之ヲ悉皆同時ニ桿端ニ且ツ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ毎次之ニ相當スル分銅ヲ臺又ハ皿ニ載セ平等セサルモノハ眞ニ不合格トシ平等ヲ得タルモノハ尙其ノ最小目盛相當ノ分銅ヲ臺又ハ皿ニ加ヘ其ノ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ但シ秤量百五十貫又ハ百五十「キログラム」ヲ超コルモノハ増錘ヲ悉皆同時ニ懸クルノ手續ヲ省キ單ニ其ノ量ニ相當スル重量ヲ懸ケテ平等ヲ得タルトキ其ノ感動ヲ檢スヘシ

四 増錘ト共ニ使用スヘキ目盛アル桿秤ニ在リテハ其増錘ヲ付タル儘前項ノ手續ヲ行ヘシ

第二十七條 臺ナキ桿秤ヲ檢査スルニハ其ノ器ノ大小ニ應シ第二秤架若ハ第三秤架ニ裝置シ錘ヲ逐次點及盛リ出シ懸ケ桿ノ水平ヲ得サルモノ若ハ腕ミノ一致セザル

モノハ眞ニ不合格トシ其ノ他ハ各段ノ目盛ニ就キ更ニ前條第二段以下ヲ適用スヘシ
第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ檢査ヲ行フニ當リ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤アルモノハ不合格トスヘシ

第三章 證印證書消印年號印及廳府縣印ノ用法

第二十九條 證印年號印及廳府縣印ハ受檢器ノ同一局部ニ一行又ハ二行ニ竝ヘテ之ヲ同時ニ附スヘシ其ノ例ハ左ノ如シ

例明治二十六年東京府檢定「二十六東正」又ハ「二十六東正」

第三十條 證印年號印及廳府縣印ヲ附スルニハ受檢器ノ種類形狀物質並之ヲ附スヘキ局部ノ廣狹ニ應シテ其ノ大小ヲ擇ヒ消印ノ大小ハ已ニ附シアル證印ニ準スヘシ
第三十一條 打込ミ印ハ金屬製ノ度量衡又ハ木、革、麻布製ノ廢器木製ノ衡器ニ用フヘシ

烙キ印ハ象牙若ハ骨製ノ度量衡器竹製ノ度量器及木製ノ量器ニ用ウヘシ
押シ印ハ度量衡器ニ附シアル證書ニ用サルヘシ

第三十二條 度量衡器ノ證印消印年號印及廳府縣印ヲ附スヘキ局部ハ左ノ如シ
一 度量器

- 一 直尺鯨尺曲尺及疊尺ハ全長又ハ記號ヲ表記セル部
- 二 卷尺ハ其一端但シ函ニ連結シアルモノハ其ノ函

三 鍍尺ハ其一端ノ環
二 量器

- 一 升ハ全量又ハ配號ヲ表記セル部及把手若ハ注口ヲ附シアルモノハ其ノ把手若ハ注口ノ一部但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ把手及注口ニ附印スルヲ要セス
- 二 斗概ハ其ノ一端

三 衡器

- 一 分銅ハ其ノ上面
- 二 天秤ハ桿ノ中央部
- 三 臺秤ハ桿ノ末端

錘ハ其ノ側面又ハ底面増錘ハ其ノ上面但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ附印スルヲ要セス

- 四 金屬製桿秤ハ直點ノ傍者ハ桿ノ末端又木製ノモノハ其ノ木材ノ部及端ニ金具ヲ附シアルモノハ其ノ金具但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ木材ノ部若クハ端ノ金具錘及増錘ハ臺秤ノモノニ同シ
- 五 皿アル衡器ニシテ桿ニ附印シ難キモノハ其ノ皿

第三十三條 證書ハ適宜其ノ大小ヲ擇ヒ左ノ三項ノ一ニ該當スル度量衡器ニ附スルモノトス

- 一 小形又ハ硬質ノ爲メ附印シ難キモノ
- 二 附印スルトキハ毀損若ハ差狂ヲ生スルノ虞アルモノ
- 三 附印スヘキ局部ヲ有セサルモノ

第四章 檢定用ニ供スル度量衡器ノ檢定方法

第三十四條 檢定用ニ供スル度量衡器ノ檢定ハ之ヲ地方原器ニ照校シテ其ノ固有ノ差ヲ檢査スルモノトシ其ノ手續ハ本章及第二章ノ規定ニ據ルヘシ
此ノ檢査ニ於テ固有ノ差ヲ超ユルモノ及分銅ノ檢査ニ於テ平等ヲ得サルモノハ檢定ニ使用スルヲ得ス

第三十五條 度器ハ左ノ手續ニ據ル

- 一 直尺ハ度器檢定臺ニ地方原器ト對接シテ之ヲ載セ第一直尺ハ每一尺ノ長サヲ第一直尺ハ全長ヲ各其ノ左方ヨリ右方ニ及ホシテ之ヲ檢シ地方原器ノ右端ニ盛リタル目盛ニ照校シテ其ノ差ヲ視定スヘシ
- 二 鯨尺ハ度器檢定臺ニ第一直尺ト對接シテ之ヲ載セ鯨尺ノ左方目盛ノ起線ヲ第一直尺ノ右方ヨリ數ヘタル鯨尺貳尺ニ相當スル目盛ニ正シク合セ第一直尺ノ右方ニ盛リタル目盛ニ照校シテ其ノ差ヲ視定シ更ニ地方原器ニ對スル差ヲ算定スヘシ地方原器ニ對スル差ヲ算定スルニハ第一直尺ノ右方貳尺ヲ地方原器ニ比シタル差ニ其ノ左方一尺ノ差ノ二分一ヲ加ヘタルモノト第一直尺ニ對スル鯨尺ノ差

トテ差引スヘシ

三 卷尺ハ度量器檢定臺ニ直尺ト對接シテ之ヲ載セ卷尺ノ目盛ノ起線ヲ直尺ノ左方目盛ノ起線ニ正シク合セ其ノ直尺ニ對スル差ヲ視定シ更ニ同様ノ手續ニ依リ直尺ニ相當スル卷尺ノ長サト直尺ノ差ヲ視定シ其ノ差ヲ差引シテ卷尺全長ノ差ヲ求メ更ニ地方原器ニ對スル差ヲ算定スヘシ

第三十六條 量器ハ左ノ手續ニ據ル

- 一 量器用尺ハ鯨尺ヲ檢査スルノ手續ニ依リ次ニ掲クル寸法ヲ直尺ニ比シ其ノ差ト直尺ノ地方原器ニ對スル差トヲ差引シテ之ヲ其ノ固有ノ差ニ照校スヘシ
- 第一及第二量器用尺 「甲」及「乙」ノ外側ノ間ノ距離 一尺五寸
- 第三量器用尺 「甲」ノ外側ト「乙」ノ内側ノ間ノ距離 一尺五寸
- 二 容量ハ總テ水重ヲ以テ檢査シ次表ニ掲クル重量ニ比シ其ノ差ヲ各器固有ノ差ニ照校スヘシ
- 五合又ハ一「リットル」以上ノ量器ニハ大形天秤ヲ二合五勺又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤ヲ用ルヲ要ス

容 量	水 重	容 量	水 重
斗	四六、〇四七	二十	「リットル」
			「キログラム」
			10.00

五	升	二四、〇五三	十	「リットル」	10.00
二	升	九六、〇八五	五	「リットル」	5.00
一	升	四六、〇四三	二	「リットル」	1.00
五	合	二四、〇五三	一	「リットル」	1.00
二合五勺		一三〇、二六一	五	「デシリットル」	0.50
二	合	九六、二〇九	二	「デシリットル」	0.10
一	合	四六、一〇四	一	「デシリットル」	0.10
五	勺	二四、〇五三	五	「センチリットル」	0.05
二	勺	九六、二〇二	二	「センチリットル」	0.02
一	勺	四六、二〇〇	一	「センチリットル」	0.01

第三十七條 天秤ハ單ニ第二章ノ規定ニ據リ分銅ハ二貫以上又ハ五「キログラム」ノモノニハ大形天秤ヲ百匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ五十匁又ハ百「グラム」以下ノモノニハ小形天秤ヲ用ルヲ左ノ三項ノ手續ニ據ル

但直點ノ検査ニ限リ調子玉ヲ以テ桿水平若クハ腕ミヲ正スコトヲ得ルモノハ之ヲ合格トスヘシ

一 五毛又ハ五「ミリグラム」以下毎組ノ分銅

一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ同量ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ每次其ノ平等ヲ檢スヘシ
一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅二箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ
一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

一毛十分ノ二又ハ一「ミリグラム」ノ分銅二箇ト一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ五又ハ五「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

一毛十分ノ五ノ分銅一箇十分ノ二ノ分銅二箇及十分ノ一ノ分銅一箇ヲ合セテ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

二 二毛以上ノ分銅ハ前諸項ノ例ニ準スヘシ

一 一厘又ハ一「センチグラム」以上毎組ノ分銅
一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ

更ニ他ノ鉛ヲ以テ左皿ノ鉛ニ載セ換ヘ平等ナラシメ之ニ撤去タル鉛ヲ添載シテ二厘又ハ二「センチグラム」ノ各分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
二厘又ハ二「センチグラム」ノ分銅二箇及一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ五厘又ハ五「センチグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

五厘又ハ五「センチグラム」以下ノ分銅ヲ合セテ一分又ハ一「デシグラム」ノ重サニ相當セシメ之ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
二分又ハ二「デシグラム」以上ノ分銅ノ検査ハ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ノ検査ノ例ニ準スヘシ

最後ニ檢シタル一貫又ハ一「キログラム」分銅ノ固有ノ差相當ノ分銅ヲ地方原器ニ添ヘ之ト其ノ一貫又ハ一「キログラム」分銅ノ平等ヲ檢スヘシ

三 二貫又ハ二「キログラム」以上ノ分銅

分銅固有ノ差ニ相當スル分銅ト地方原器トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ右皿ヨリ其固有ノ差相當ノ分銅ノモヲ左皿ヨリ其ノ鉛ヲ撤去シ更ニ他ノ鉛ヲ左皿ニ載セ換ヘ之ヲ平等ナラシメ又左皿ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二貫又ハ二「キログラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ原器ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

五貫又ハ五「キログラム」ノ分銅ニ在テハ四回十「キログラム」分銅ニ在テハ九回二十「キログラム」分銅ニ在テハ十九回鉛ヲ鑄セ換ヘ前項ノ手續ヲ行フヘシ

第五章 製作修覆原器ノ検査

第三十八條 製作修覆原器ノ検査ハ檢定用度量衡ト同一ノ手續ニ依ルヘシ

但シ検査ノ成績ハ検査ヲ受ケタル者ノ請求ニ依リ之ヲ書面ニ認メ交付スヘシ

(第一圖 第四圖) 圖形略之

○度量衡臨檢要項

明治二十五年十二月廿六日 山口縣令第七三七號

度量衡取締手續中第三條臨檢ノ要項中差狂ノ例ヲ擧グレハ左記ノ通ニ有之候條爲念「各町村長へ御傳不相成度」此段及御照會候也(市長へハ「ヲ除ク」)

差狂ノ例

度量器

一、兩端磨損シ又ハ枉撓スルノ類

二、疊尺ノ接續部ニ緩ヲ生スルノ類

三、目盛、全長表記ノ記號、年號、及番號ノ磨滅スル類

量器

一、槽糠其他ノ付着及缺損等ノ爲メ容量ノ増減スヘキモノノ類

二、斗概ノ枉撓シ若クハ側面ニ凹凸ヲ生スルノ類

三、容量ノ表記等磨滅スルノ類

衡器

一、分銅ノ重量ニ増減ヲ來スノ類

二、桿ノ枉撓スルノ類

三、目盛等ノ磨滅スルノ類

四、指針ノ屈曲スル類

○度量衡取締手續

明治廿五年十二月二十七日 山口縣訓令甲第四十六號

郡市役所 町村役場

明治廿四年法律第三號度量衡法第十一條第二項ニ依リ市町村長チレテ其市町村內ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ左ノ通其手續ヲ定ム

度量衡取締手續

第一條 市町村町ハ常ニ其市町村內ニ於ケル度量衡器ヲ觀察シテ之ガ取締ヲ爲シ製作場修覆場販賣所及營業使用者ヘハ毎年三回以上臨時臨檢シ其都度其量況ヲ當廳ヘ届出違犯者アルトキハ刑事訴訟法第五十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 臨檢ノ節ハ憲テ當廳ヨリ交付シタル所ノ主任證書ヲ携帯シテ之ヲ示スヘシ

但主任證書ハ平常嚴重ニ封緘シ市町村長自ラ管守スヘシ

第三條 觀察臨檢ノ要項左ノ如シ

度量衡

第一項 一般ノ取締

- 一 免許ヲ受ケズシテ度量衡器ヲ製作シ若クハ修覆シテ販賣スルモノナキヤ
- 二 免許ヲ受ケズシテ度量衡器ヲ販賣スルモノナキヤ

第二項 製作場及修覆場

設計書ニ變更ヲ來スコトナキヤ

第三項 販賣所

- 一 設計書ニ變更ヲ來スコトナキヤ
- 二 檢定ヲ受ケズ又ハ差狂アル度量衡器ヲ販賣セザルヤ

第四項 營業ノ目的ニ使用スル者

檢定ヲ受ケズ又ハ差狂ヲ生シタル度量衡器ヲ使用セサルヤ

第四條 市町村長ニ於テ度量衡法施行規則第四十四條ノ屆書ヲ受理シタルトキ其所有者所轄内ニ在ルモノハ本人ヲシテ製作者若クハ修覆者ノ修覆ヲ受ケシムルカ又ハ直ニ檢定ヲ受ケシメ其所有者所轄外ニ在ルトキハ屆書ノ寫ヲ添へ所轄市町村長へ通知スヘシ

前項後段ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ其前段ノ手續ヲ爲スベシ

第五條 前條ノ手續ヲ爲スモ尙檢定ヲ受ケズシテ營業ノ目的ニ使用シタルトキハ本手續第一條末段ノ手續ヲ爲シ其頗末ヲ當廳へ届出ツヘシ

〇度量衡取締臨檢報告ノ件 明治二十六年十二月二十七日
内務部長通牒三下第一三四四號

度量衡取締臨檢報告ノ義ハ一定ノ書式紙之ヨリ精粗一様ナラズ間々其概況ヲモ知シ難キモノ有之候ニ付以往左記要項ニ從ヒ報告候様(郡へハ各町村役場へ御傳達)(市へハ御取計)相成度來命此段及通牒候也

度量衡取締臨檢報告要項

- 一 臨檢ノ年月日
- 二 臨檢者ノ氏名
- 三 一般ノ取締
 - 免許ヲ受ケズシテ製作修覆販賣等ヲ爲シタル者ノ有無若シ有ラハ其種類別個數及氏名并ニ處分ノ頗末(法八、手續一、三)
 - 製作又ハ修覆場
- 四 認可ヲ得タル設計書ト事業ト相違ノ有無若シ相違アラハ其事項及氏名(勅令六、七、手續一、三)
- 五 販賣所
 - 認可ヲ得タル設計書ト實業ト相違ノ有無若シ有ラハ其事項及氏名(勅令六、七、手續一、三)

檢定ヲ受ケザルモノ又ハ差狂ヲ生シタルモノ、有無若シアラハ其種類個數及氏名

六 并ニ處分ノ顛末(法一五、手續一、三)營業ノ目的ニ使用スル者

- 一 臨檢シタル戸數
 - 二 臨檢シタル器物種類別個數
 - 三 差狂アルコトヲ知ラズシテ使用シタルヲ發見シタルモノ、有無若シ有ラハ其種類別個數及處分ノ顛末(手續一、三)
 - 四 差狂アルコトヲ知テ使用シタルモノ、有無若シ有ラハ其種類氏名及處分ノ顛末(法一五、手續一、三)
 - 五 檢定ヲ受ケザル器物ヲ使用スルモノ、有無若シコレアラハ其種類氏名及處分ノ顛末(法九手續一、三)
 - 六 偽造者クハ變造ノ器物ヲ使用シ又ハ所有スルモノ、有無若シ有ラハ其種類氏名及處分ノ顛末(刑法三二七、三二八、三二九、三三〇)
 - 七 臨檢ヲ拒ムモノアラハ其氏名及處分ノ顛末(法一五)
- 備考 法一、二十四年法律第三號度量衡法第一條、敕令一、二十四年敕令第七十七號第一條、手續一、二十五年度縣訓甲第四十六號度量衡取締手續第一條參照ヲ要スルモノナリ

○度量衡檢定所設置 明治二十五年十二月廿八日 山口縣告示第五百十七號

本縣常置度量衡檢定所ヲ本廳構内ニ設置ス

○市町村長ヲシテ度量衡器ノ取締ヲ行ハシム 明治廿五年十二月廿八日 山口縣告示第五百十五號

明治廿四年法律第三號度量衡法第十一條第二項ニ依リ各市町村長ヲシテ其市町村内ニ設ケ、度量衡器ノ取締ヲ行ハシム

○度量衡取締人携帶證票 明治廿五年十二月廿八日 山口縣告示第五百十六號

度量衡取締主任者臨檢ノ節携帶スヘキ主任證票左記雛形ノ通之ヲ定ム

表 度量衡取締主任之證

明治 年 月 日	山口 縣
-------------------	---------

○度量衡營業者心得 明治二十六年四月二十一日 山口縣令第三十號

度量衡營業者心得左、通相定ム

但明治廿五年(十二月)本縣令第七十七號ハ自今廢止ス

度量衡營業者心得

第一條 度量衡營業者トハ度量衡製作者修復者及販賣者ヲ網稱ス

第二條 度量衡營業者ハ別紙様式ニ從ヒ前年四月ヨリ其年三月ニ至ル明細表ヲ製シ毎年四月十五日迄ニ當廳へ届出ツヘシ

第三條 衡器販賣者ニ於テ度量衡法施行規則第四十四條ノ届出ヲ爲ストキハ其桿秤ノ物質秤量ニ盛製作記號年號番號檢定年號縣府縣名修覆ケ所修覆月日所有者ノ職業住所氏名及差任タリト認メタル廉等ヲ詳記スヘシ

(自何年四月至何年三月)度量衡器製作明細表

度器(量器衡器亦之ニ倣)

計	形状	物質	種類	前年度製作		受檢		檢定	販賣	殘數
				未殘數	數	合格	不合格			
				尺	「メートル」					
				尺	「メートル」					
計										

備考 殘數ハ前年度未殘數ト受檢合格數トノ和ヨリ販賣數ヲ控除シタカモノヲ掲ク

量器ニハ尺、「メートル」ヲ升、「リットル」トシ其斗概ニハ大中小トシテ形状及

物質ノ欄ヲ削リ衡器ニハ尺、「メートル」ヲ貫「キログラム」トシ其秤ニハ形状ノ欄ヲ削ルベシ

右之通相違無之候也

年月日 何郡(市)何町(村)何番地 何製作者 何 某印

縣知事宛

(自何年四月至何年三月)度量衡器販賣明細表

販賣人何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地何某(販賣度器)
(量器衡器亦之ニ倣)

計	形状	物質	種類	類		個數	代價
				尺	「メートル」		
				尺	「メートル」		
				尺	「メートル」		
計							

備考 量器及衡器ノ記載例製作明細表ニ同シ

販賣人別ニ列記スヘシ

使用者へ販賣シタルモノハ其總數ヲ記スヘシ

右之通相違無之候也

年月日

縣知事宛

何郡(市)何町(村)何番地

何製作者 何

某印

(自何年四月至何年三月)度量衡修覆明細表

度器(量器衡器)秤秤ノ取緒及錘系ノ金属ニアラサルモノ、修覆ハ之ヲ除ク
「亦之ニ倣」

形状	物質	種類	修覆數	修覆料	受檢數		檢定未済數
					合格	不合格	
		尺					
		コノトトル					
		尺					
		コノトトル					
計							

備考 量器及衡器ノ記載例製作明細表ニ同シ
右之通相違無之候也

年月日

縣知事宛

何郡(市)何町(村)何番地

何製作(修覆者) 何

某印

(自何年四月至何年三月)秤秤取緒及錘系ノ金属ニアラサル修覆明細表 其壹
取緒(錘系亦之ニ倣)

物質	秤量	修覆		修覆料
		差狂ナキモノ	差狂アリト認メタルモノ	
計				

備考 製作者及修覆者ハ修覆數ノ内譯ヲ削ルベシ
右之通相違無之候也

度量衡

度量衡檢定用具取扱手續

- 第一條 度量衡檢定用具ハ適宜主任ヲ定メテ之ヲ取扱ハシムルモノトス
- 第二條 主任者ハ帳簿ヲ備ヘ置キ物品ノ出納授受ノ毎ニ之ヲ登記スルモノトス
- 第三條 故意又ハ怠慢ニ依リ物品ヲ亡失毀損シタルモノアルトキハ其旨ヲ農商務大臣ニ具申シ之ニ對スル相當ノ代價ヲ辨償セシムルモノトス
- 第四條 前年度ニ於テ出納シタル物品ノ名稱及數量并現在高ハ毎年四月一日ヨリ十五日マデニ農商務大臣ニ報告スルモノトス
- 第五條 不用ニ屬シタル物品ハ之ヲ農商務省ニ反納スルモノトス
- 第六條 度量衡檢定用具中左記ノモノ、修補ヲ要スルトキハ廿四年訓令第三十五條第八條ニ依リ引換ヲ請求スルモノトス
 - 一 第一直尺
 - 一 第二直尺
 - 一 鯨尺
 - 一 第一卷尺
 - 一 第二卷尺
 - 一 第一量器
 - 一 第二量器

支點重點及桿ノ破損
全全

- 一 第一分銅
 - 一 第二分銅
 - 一 大形天秤
 - 一 中形天秤
 - 一 小形天秤
 - 一 證 印
 - 一 楷 印
 - 一 年 號 印
 - 一 廳府縣印
- 第七條 前條記載外ノ檢定用具ノ修復ヲ要スルトキハ修復見積書ヲ添ヘ其旨ヲ農商務大臣ニ伺出許可ヲ受クヘシ
- 檢定用度量衡固有ノ差 明治二十六年七月十三日 商工局通牒丁第一四三號
- 明治廿四年八月農商務省訓令第三十九號第十條同廿五年七月農商務省訓令第二十二號第四章ニ依リ檢定用度量衡器ノ檢定ニ要スル各器固有ノ差ハ別表ノ碼ニ有之候條及御通牒候也
- 度 器
- 檢定用度量衡器固有ノ差

名	稱	固有ノ差	名	稱	固有ノ差
檢定用第一直尺		〇、五	檢定用第二直尺		一ミリメートル 〇、一
全 第一卷尺		三、三	全 第二卷尺		〇、八
全 鯨尺		一三			
全 量器用尺		〇、四			
量 器					
檢定用第一量器			檢定用第二量器		
一斗		一〇七〇〇	廿立		一グラム 四四、五〇
五升		五、三五〇	十立		二二、二一〇
二升		二、一四〇	五立		一一、一〇〇
一升		〇、六七〇	二立		一、七〇〇
五合		〇、五〇〇	一立		一、四〇〇

量 器 水 量 更 正 表

温 度	係 數	混 度	係 數	温 度	係 數
〇	1.0012	12	1.0008	24	1.0020
1	1.0012	13	1.0009	25	1.0023
2	1.0051	14	1.0009	26	1.0026
3	1.0010	15	1.0010	27	1.0027
二合五勺		〇、三三三	五 立分		一、三三三
二合		〇、三三三	二 立分		〇、三三三
一合		〇、〇六七	一 立分		〇、一七
五勺		〇、〇三三	五 立厘		〇、一〇
二勺		〇、〇一七	二 立厘		〇、〇七
一勺		〇、〇一七	一 立厘		〇、〇四

4	1.0009	16	1.0011	28	1.0029
5	1.0008	17	1.0012	29	1.0031
6	1.0008	18	1.0013	30	1.0033
7	1.0038	19	1.0014	31	1.0036
8	1.0008	20	1.0015	32	1.0038
9	1.0007	21	1.0017	33	1.0041
10	1.0007	22	1.0019	34	1.0043

檢定用量器ノ檢定ハ所用ノ水及空氣ノ略全温ニナルヲ俟テ之ヲ行ヒ其温度ニ相當スル係數ヲ本表ニ求メ之ヲ檢定ニ由テ得タル重量ニ乘シ其乘積ヲ檢定規程第三十六條第二項ノ表ニ掲グル重量ニ比スヘシ
但シ一度ニ滿タサル混度ノ分數ハ四捨五入ノ法ニ依リ本表ニ掲グル温度ノ數ニ適合セシムヘシ

衡器

檢定用第一分銅

檢定用第二分銅

五貫	〇.二〇	廿匁	「グラム」 〇.八〇
二貫	〇.一〇	十匁	〇.五〇
一貫	〇.〇一	五匁	〇.二五
		二匁	〇.〇四
		一匁	〇.〇一

○桿秤檢定ニ關スル件
明治二十六年七月十八日
農商務省內訓丁第一五二號

聽府縣

桿秤檢定ノ際取緒ノ下部ニ附シタル目盛ニシテ實際秤量シ得サルモノアルトキハ特ニ其部分ノ検査ヲ省略スヘシ

◎ 氣象

○ 氣象臺測候所條例

明治二十年八月八日
勅令第四十一號

第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ文部大臣之ヲ指定ス

第二條 前條ノ外測候所ヲ設置セントスルモノアルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
第三條 中央氣象臺ハ文部大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ文部大臣之ヲ監督ス其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス

第四條 地方測候所ノ費用ハ該測候所々在地ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第五條 中央氣象臺及各測候所ハ事業上互ニ氣脈ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム
(參照)

明治廿六年十月三十日勅令第三百三十四号ヲ以テ氣象臺測候所條例第一條第二條第三條及第六條中內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム

○ 氣象臺測候所條例施行細則

明治廿五年五月四日
內務省令第五号

氣象臺測候所條例施行細則左之通改定ス

氣象臺測候所條例施行細則

第一條 中央氣象臺ハ全國ノ氣象事業ヲ統轄シ全國ノ氣象ヲ調査シ全國ニ天氣豫報暴風警報ヲ發スル所トス

第二條 地方測候所ハ所在地ノ氣象ヲ觀測シ所屬廳管内ノ氣候ヲ調査シ竝ニ中央氣象臺ノ天氣豫報ニ基キ地方天氣豫報ヲ發スル所トス

第三條 地方測候所ヲ分テ一等二等トス

一等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計日温計地温計地中寒暖計風力計風信器雨量計蒸發計日照計地震計等ヲ備ヘ毎時觀測ヲ爲スモノトス
但自配器械ヲ備フルモノハ其觀測ヲ一日六回ト爲スコトヲ得

二等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計風力計風信器雨量計地震計等ヲ備ヘ一日六回ノ觀測ヲ爲スコトトス

第四條 地方測候所ハ中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケタルトキ及天候不穩ト認メタルトキハ前條觀測ノ外ニ臨時數回ノ觀測ヲ爲スコトヲ得

第五條 地方測候所ハ中央氣象臺ニ向ヒ左ノ報告ヲ爲スコトヲ得

- 氣象電報
- 氣象日報
- 氣象年報
- 一周年事業報告
- 氣象五年報
- 暴風報告
- 雷雨報告
- 地震報告
- 積雪報告
- 動物報告
- 植物報告
- 雜報

第六條 條例第五條ノ主旨ニ基キ地方測候所ハ氣象月報氣象年報及氣象五年報ヲ印刷シ便宜交換スヘシ

第七條 觀測ノ時刻方法器械ノ品位報告ノ書式及期限等ハ中央氣象臺ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定ムヘシ

第八條 內務大臣ハ隨時中央氣象臺技師ヲシテ地方測候所ヲ巡閱セシム

第九條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスル時ハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ノ許可ヲ請フ可シ

- 一 設立ノ位置及地勢
 - 二 使用スヘキ器械ノ明細書
 - 三 維持ノ方法
- (測候所ノ位置ヲ示シタル略圖ヲ添フルヲ要ス)

第十條 條例第四條ノ地方測候所費ハ北海道廳ニ於テハ本廳費沖繩縣ニ於テハ地方費ヲ以テ支辨ス可シ

附則

第十一條 本則第二條ノ地方天氣豫報ヲ發スルニハ當分ノ內內務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第十二條 市町村又ハ人民ニ於テ新ニ警報信号標ヲ設立セント欲スル時ハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第十三條 地方長官新ニ警報信號標ヲ設立シ或ハ其設立ヲ許可セハ實施ヨリ少クモ三十日前至明細書及位置ヲ示シタル略圖ヲ添ヘ中央氣象臺ニ通知ス可シ

第十四條 既設ノ警報信號標ニ異動ヲ生シタル時ハ地方長官ハ之ヲ中央氣象臺ニ通知ス可シ

ス可

第十五條 前二箇條ノ場合ニ於テハ中央氣象臺ヨリ之ヲ全國ニ告示ス可

○中央氣象臺氣象通報規程 明治二十九年三月七日 文部省令第二號

中央氣象臺氣象通報規程ヲ定ルノ左ノ如シ

中央氣象臺氣象通報規程

第一條 中央氣象臺ニ氣象ノ通報ヲ依頼スルモノハ此規程ニ據ルヘシ

第二條 氣象ノ通報ヲ依頼スルモノハ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ一旦納付シタ

ル手数料ハ如何ナル事故アルモ還付セス

第三條 氣象通報手数料ノ金額ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ定ム

種別	普通電報ヲ以テ通報スル一回分料金	至急電報ヲ以テ通報スル一回分料金
氣象區天氣豫報	金貳拾錢	金四拾錢
同上高低氣壓ノ位置及氣壓度付	金參拾錢	金六拾錢
東京地方天氣豫報	金貳拾錢	金四拾錢
全國天氣實況	金七拾錢	金壹圓四拾錢
暴風警報	金參拾五錢	金九拾錢

第四條 別便配達ヲ乞フ者ハ第三條ニ規定スル手数料ノ外電信局ヨリ九町毎ニ金參錢解船配達ヲ要スル者ハ金貳拾錢ヲ併納スヘシ

第五條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ規定シタル事項ノ外依頼ニ應セス但潮候所ノ依頼ニ限リ特別ノ通報ヲ爲スコトアルヘシ其手数料ハ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル

第六條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ規程シタル符号式ニ依ル

第七條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ發送シタル後万一不達ノコトアルモ該臺ハ其責ニ任セス

第八條 氣象ノ通報ヲ依頼セントスルモノハ左式ノ依頼書ヲ造リ其手数料金ニ相當ナル登記印紙ヲ貼付シ中央氣象臺ニ差出スヘシ

書式(用紙美濃紙)

通報依頼書

登記印紙 全國若クハ某氣象區 天氣豫報

ヲ貼付シ 又ハ何々數氣象區 天氣豫報

シ 同上高低氣壓ノ位置 天氣豫報

一通報種別 東京地方天氣豫報

全國天氣實況

暴風警報

- 一 通報期限 何月何日ヨリ何月何日マテ何十何日間若クハ何月何日以降何十何回(但一會計年度以内ノ豫定トス)
- 一 電報種數 普通電報若クハ至急電報
- 一 届先 何國何郡(市區)何町村何番地氏名
- 一 最近電信局何郵便電信局若クハ何電信局
- 一 最近電信局迄ノ距離 何十何丁
- 一 別使若クハ船船配達 有無
- 右通報相成度及御依頼候也

年月日

依頼者住所 氏名 名印

中央氣象臺長 氏名 殿

第九條 本會ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

○氣象通報手續 明治二十九年四月一日 中央氣象臺告示第七十七号

明治二十九年文部省令第二号ニ依リ氣象通報手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

氣象通報手續 (本手續ハ豫報符号等頗ル繁雜ナルカ故略ス廿九年四月一日官報三千八百二十四号附録ニ掲載アリ)

○地方測候所職員ノ名稱待遇任免及等級配當ノ件 明治廿八年十月廿二日 勅令第四百十九号

地方測候所職員ノ名稱待遇任免及等級配當ノ件 地方測候所職員ノ名稱待遇任免及等級配當ノ件

第一條 明治二十年勅令第四十一號氣象臺測候所條例ニ據クル地方測候所ノ職員ノ名稱左ノ如シ

所長 技手

第二條 地方測候所長ハ廳府縣官吏高等學校府縣立師範學校公立中學校ノ職員若クハ地方測候所技手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 地方測候所技手ハ判任文官ノ待遇ヲ受ク其ノ任免ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ行フ

一 尋常中學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之ト相當スル學力ヲ有スル者

第四條 地方測候所技手ノ等級ハ其俸給額ニ應シ左表ニヨリ文武判任官等級ニ配當ス但同等級内ニ於テハ文武判任官ノ次席タルヘシ

地方測候所技手等級配等表

判	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
任	月俸五拾圓以上	月俸四拾圓以上 月俸五拾圓未滿	月俸三拾圓以上 月俸四拾圓未滿	月俸二拾圓以上 月俸三拾圓未滿	月俸二拾圓未滿

○地方測候所ノ位置 明治二十年十月十一日 內務省告示第四號

本年勅令第四十一号氣象臺測候所條例ニ基キ地方測候所ノ位置ヲ定ルコト左ノ如シ

山口縣 赤間關 (他府縣ニ係ル分略ス)

○氣象信號標式 明治廿五年六月十日 中央氣象臺告示第三號

氣象信號標式左ノ通相定メ本月十五日ヨリ實施ス

但シ元地理局氣第一号第二号及第八号報告ハ本月十四日限廢止ス

氣象信號標式

一 氣象信號標ヲ分チテ二種トス

警報信號標 豫報信號標

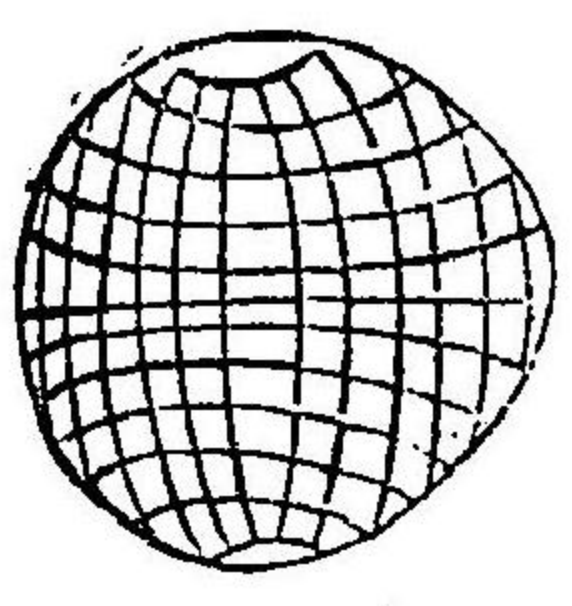
一 警報信號標ハ中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケタルキハ發信時ヨリ二十四時間之ヲ揭

揚スルモノトス

但シ信號標下ニ警報ノ全文ヲ揭示スヘキモノトス

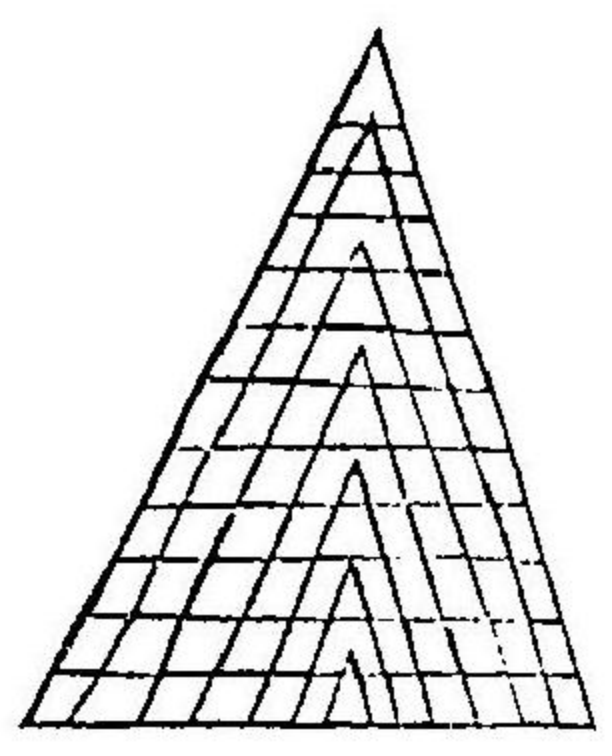
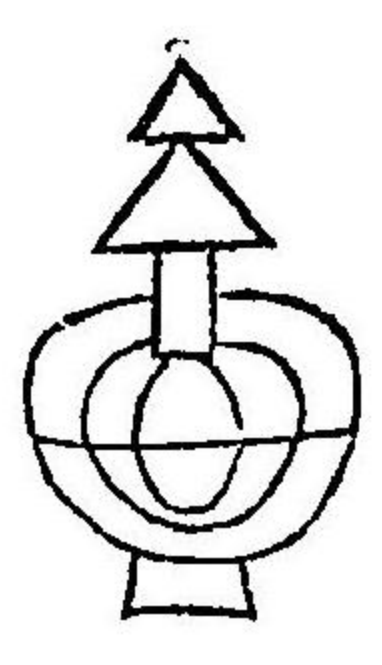
一 警報信號標ハ赤球又ハ赤圓錐トス

但シ夜間ハ紅燈一箇ヲ以テ赤球ニ換ヘ横列二箇ノ紅燈ヲ以テ赤圓錐ニ換フルモノトス

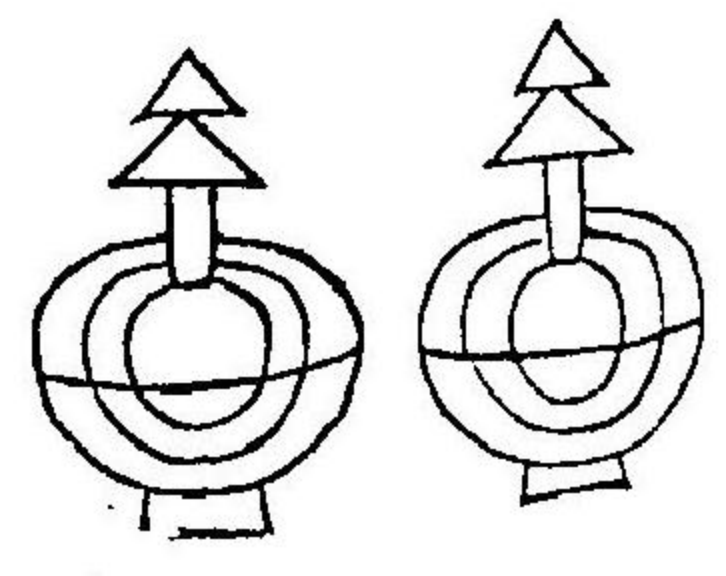


赤球

紅燈一



赤圓錐



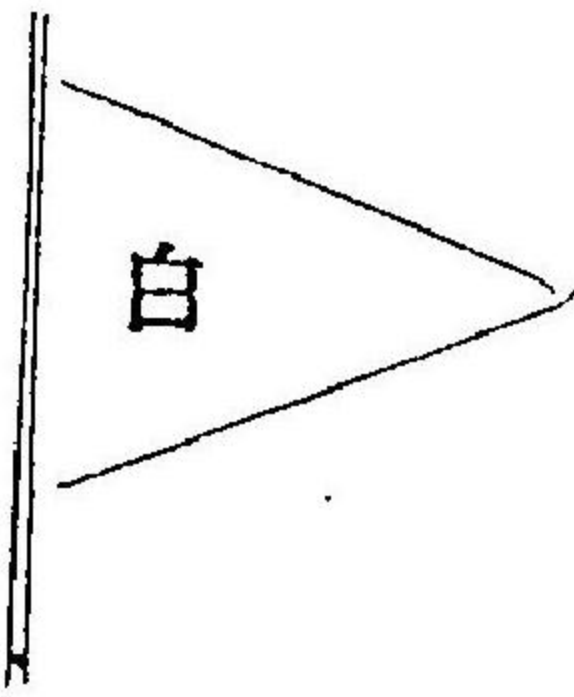
紅燈二

一 赤球ハ暴風起ラントスルノ虞アルヲ示シ赤圓錐(尖ヲ上トス)ハ暴風起ラントシ天候特ニ險惡ノ虞アルヲ示ス

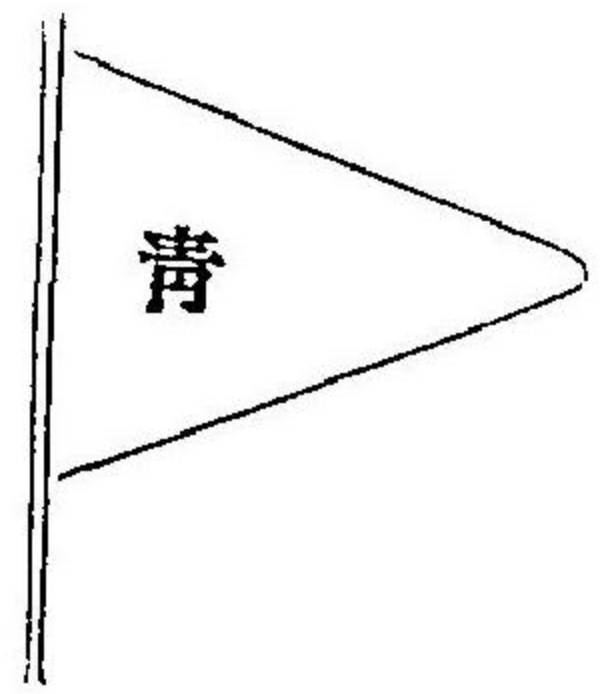
一 豫報信號標ハ中央氣象臺又ハ地方測候所ノ天氣豫報ヲ受ケタルトキ之ヲ掲揚スルモノトス

一 豫報信號標ハ三角旗方旗及長流ノ三類トス

一 三角旗ハ風ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ

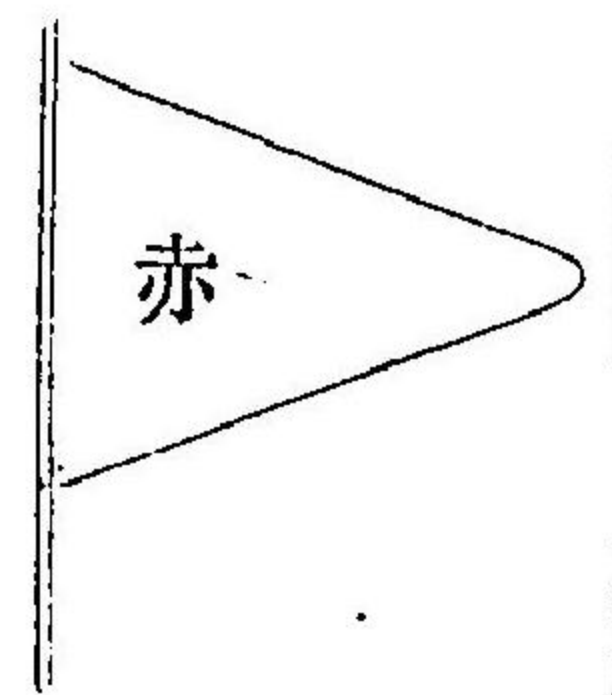


北ノ風

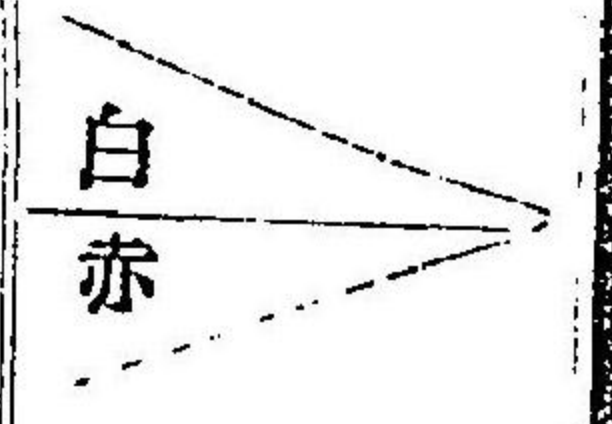


東ノ風

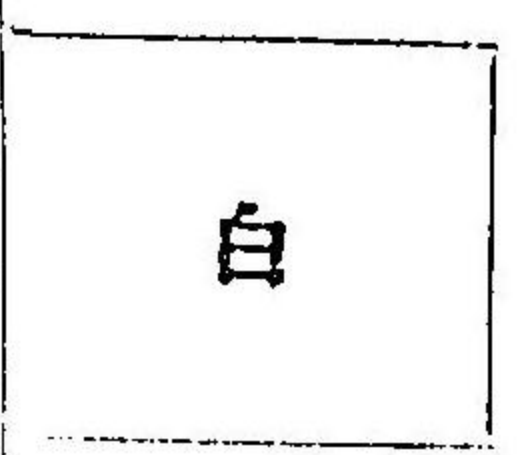
一方旗ハ天氣ヲ豫報スルモノニレテ其類左ノ如シ



南ノ風



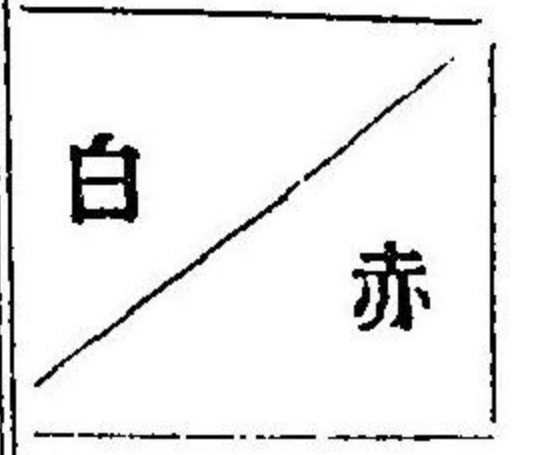
西ノ風



晴レ



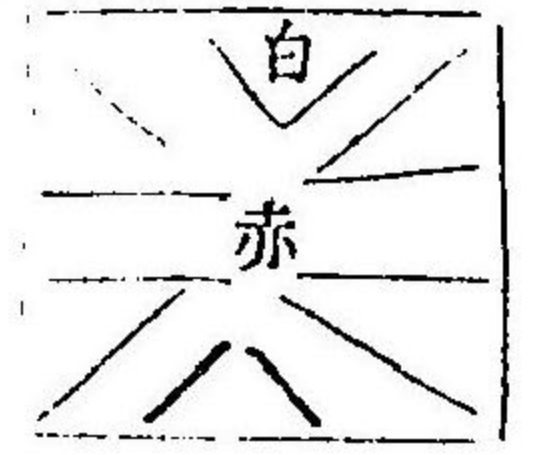
曇リ



天氣變易レ



雨又ハ雪



雪

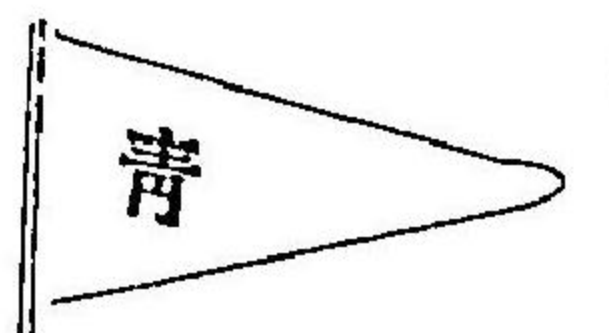


霧



霜

一長旗ハ溫度ノ昇降ヲ豫報スルモノニレテ其分類左ノ如シ



寒クナル(冬春)
涼クナル(夏秋)



暖クナル(冬春)
熱クナル(夏秋)

○地震雷雨雪霜報告心得

明治廿四年十二月廿二日
山口縣訓令ニ乙第五八二五號

各 郡 役 所

地震雷雨積雪初終霜雪取調ノ機ハ氣象觀測上必要ノモノニ付來廿五年一月一日ヨリ別紙心得書ニ依リ赤關關測候所ヘ報告スヘシ
但報告用紙ハ同測候所ヨリ回付セシムヘシ
右訓令ス

地震報告心得

(別紙)

氣象

第一條 地震ノ報告ハ第二條以下ノ各條ニ照依シ別紙ノ用紙ニ記入レテ報告スルモノトス

第二條 地震ノ起リタル時刻ヲ精密ニ測ルニハ地震ヲ覺ユルヤ直チニ時計ニ就テ先ツ秒針ヲ看次ニ分針ヲ看又地震ノ終ル時ニモ秒針分針時針順次ニ之ヲ看ルヘシ但シ時刻ハ其土地ノ平時ヲ用フヘシ

第三條 震動時間ノ長短ヲ測ルハ秒分ヲ以テスヘシ但時計ナキハ人々ノ感覺ニ任ス
第四條 地震ノ方向ヲ測ルハ大概器中ニ充テタル液体ノ動搖釣ランテ搖錘ノ振搖物品ノ倒伏スル方角ヲ見テ之ヲ知ルヲ得ヘシ又成ヘク動搖ニ感セサル水平ノ線所ニ小圓柱ヲ直立シ置キ其倒レタル方向ヲ測レハ更ニ善シトス例ヘハ釣ランテ東西ニ動搖セハ地動ハ略ホ東西ナルコトヲ知リ圓柱南北ニ倒レタルキハ略ホ南北ナルコトヲ知ル又家屋並ニ壁ニ生シタル罅隙裂痕等ニ注目スルモ其方角ヲ知ルノ一助トナルヘシ
搖錘時計ノ止リシキハ其指針ノ示ス時分秒ヲ讀取リ而シテ其時計ハ何レノ方角ニ向ヒ懸ケタルヤ之ヲ詳細記入スヘシ

第五條 地震ノ強弱ヲ測ルハ微、弱、強、烈ノ四種ニ區別ス微ハ僅ニ地震アルヲ覺ヘシ者弱ハ震動ヲ覺エルモ戶外ニ避ルニ足ラサル者強ハ往々物品モ倒伏液体ノ溢出等アリ人々戶外ニ走リ避ル者烈ハ屋宇ヲ毀損若クハ倒伏シ或ハ地面ノ變化ヲ起ス者ナリ
第六條 地震ノ性質ヲ測ルハ地不動即チ左右若クハ前後ニ震搖セシカ又ハ上下動即チ

上下ニ震動セシカ或ハ戶外通車ノ轟々タルニ似タルカヲ熟察シ其感覺ニ由テ之ヲ記スヘシ

第七條 地震ノ爲メニ轉回セシモノアラハ其物ノ地動前ノ位置方角及ヒ性質大小ヲ記シ又地震ノ爲メニ轉動シタル新位置方角ヲ記スヘシ又物体高所ヨリ低所ヘ投出サレタル等ノコトアレハ其高サ並ニ投出サレタル位置距離ヲ測ルヘシ
成ヘク位置等ノ略圖ヲ畫クヲ善シトス

第八條 家屋ノ破損スルコトアレハ之ヲ記スヘシ又壁ニ裂罅ヲ生スレハ其廣狹傾斜並ニ其壁ノ性質方向ヲ掲クヘシ

第九條 土地ノ綻裂スルコトアレハ其幅及ヒ長サヲ記シ水ノ湧出スルコトアレハ其量ヲ記スヘシ

第十條 前ノ諸項ヲ觀測セシ家屋ノ位置基礎ノ種類近傍ノ地質地勢ヲ示シ震災ニ罹リシ地ノ略圖ヲ載スル等ノコトアレハ其裨益之ニ過ルモノナシ

第十一條 地震前又ハ全時ニ遠近ニ聲響ヲ聞クコトアリ其原因ハ全ク地ノ鳴動ニ由ルカ又ハ家屋震動ノ響ナルカ而シテ其始マリハ地震ノ前凡ソ何秒時間ニアリテ何秒時間ニ止マリシカ且ツ其響ノ性質ハ何音ニ似タルカヲ記スヘシ

第十二條 地震ノ起ルキニ於テ天氣ノ模様ヲ認知シ晴雨計並ニ寒暖計ノ度ヲ測ルハ緊要ノコトナリ加之其前後數日間ノ觀測表ヲ添ヘ之レニ使用セン儀器ノ種類ヲ舉レハ更

ニ善シトス

第十三條 地震前又ハ同時ニ電氣磁氣ノ現象ニ注意スヘシ蓋シ地震ノ起ルトキニ地電氣ノ流通甚クシク電信機ノ作用ニ變化ヲ起スコトアリ則チ地震ト電氣磁氣ノ關係ヲ研究スルコト一大要務ナリトス

第十四條 又地震ノ前後ニ注目スヘキ要項アリ近傍ニ火山アル所ハ其變動ノ有無溫泉アルトキハ溫度ノ昇降ニ注意シ其他泉井水ノ汚濁増減及天空ノ變色魚類鳥獸ノ動作等ニ注意スヘシ

第十五條 震災ノ甚キニ至テハ前條諸項ノ外尙登錄スヘキ者枚舉ニ遑アラズ故令ハ地裂ケテ水穴ヲ噴出シ山谷崩壞シ土地沉昂シ湖水生シ川流水路ヲ變スル者ナリ此等ノ變アル所ハ務メテ詳細ノ記録アラソコトヲ要ス

第十六條 一地方ニ於テ地震甚クナルモ之ヲ登錄スルヲ要ス何トナレハ是レ他ノ地方大震ノ餘波ナルモ未ダ知ルヘカラスシテ是ニ因テ各地ノ報告ヲ蒐集シ其強弱遠近ヲ考ヘテ正ニ其中心ハ何處ニシテ何里方ヘ波及セシヲ知ルヲ得ヘケレハナリ故ニ以上ノ諸項悉ク覺知スルコト能ハサレハ其中一二件ニテモ報告アラソコトヲ乞フ

第十七條 儀器ヲ以テ觀測シタル件並ニ最モ確實ナリト信スル各項ニハ⊗ノ符號ヲ付シ置クヘシ

第十八條 確記欄内ニハ前項ニ掲ケサル種々ノ現象ヲ記入スヘシ

第十九條 報告ハ必ズ地震ノ番號(年内ノ初震ヲ第一號トス)ヲ首行ニ撰書シ報告者ノ國郡町村並ニ姓名ヲ記スヘシ

第二十條 報告ハ先ツ用紙一枚ニ草稿ヲ書シテ乙字ヲ欄ノ右肩ニ記シ更ニ一枚ニ淨寫シテ甲字ヲ欄ノ右肩ニ記シ面シテ甲字ヲ記シタルモノヲ中央氣象臺ニ送付シ乙字ヲ附シタルモノヲ報告者ニ於テ保存スヘシ

地震報告

明治 年 第 號

內務省地理局中央氣象臺

地名	年月日時及分秒ヲ記スヘシ(本地平時)	震動ノ初ヨリ震動ノ終マテノ時及分秒ヲ記スヘシ	震動ノ方向	震動ノ強弱ノ種ニ分記スヘシ
			北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ八方位ニ分記スヘシ	微、弱、強、烈、ノ四種ニ分記スヘシ

報告者住所姓名	國	郡	村町	番地	記		震動ノ性質	震動ノ強弱	震動ノ方向	震動ノ時間
					前記	雜記				
					前記ノモルタレニハス	雜記ノモルタレニハス	地動ノ上下動、聲ノ有無ヲ記スヘシ	微、弱、強、烈、ノ四種ニ分記スヘシ	北、北東、東、南東、南、南西、西、北西、南西ノ八方位ヲ分記スヘシ	震動ノ初ヨリ震動ノ終マテノ時及分秒ヲ記スヘシ

報告者住所姓名	國	郡	村町	番地	記		震動ノ性質	震動ノ強弱	震動ノ方向	震動ノ時間
					前記	雜記				
					前記ノモルタレニハス	雜記ノモルタレニハス	地動ノ上下動、聲ノ有無ヲ記スヘシ	微、弱、強、烈、ノ四種ニ分記スヘシ	北、北東、東、南東、南、南西、西、北西、南西ノ八方位ヲ分記スヘシ	震動ノ初ヨリ震動ノ終マテノ時及分秒ヲ記スヘシ

地震報告

明治 年 第 號

雷雨報告

明治 年 第 號

地名

國 郡

市町村

月 日
明治 年 月 日

始メテ雷鳴チ明ニ聞キタル

時刻
方角

午 時 分

雨ノ降り始メシ時刻

午 時 分

雹ノ降り始メシ時刻

午 時 分

雨ノ強弱

雹ノ大小

雷雨ノ經過セシ位置

乙

最後ノ雷鳴時刻

午 時 分

同上方角

雨ノ降り始ヨリ降り
歇ミ迄ノ時間

分間

雨 量

佛厘

雷雨

風ノ方向

風

力

温 度

温度観測時刻

前

中

午 時 分

後

午 時 分

午 時 分

雜

記

報告者住所姓名

國

郡

市町村

番地

氣象

雷雨報告心得

一雷雨報告ハ降雨降雹等ノ有無ニ拘ラス雷鳴ヲ明カニ聞取タルハ必ス報告スヘキモノトス
 一雷雨報告ニハ必ス番號ヲ附スヘシ(但シ年内ノ初雷ヲ第一號トス)
 一報告ノ事項ヲ分テ甲表乙表及雜記ノ三種トス
 一甲表ニ掲ケタル事項ハ器械ヲ要セス何人ニテモ容易ニ觀測シ得ヘク且雷雨研究上特ニ必要ナレハ地方有志者ノ奮テ報告セラレシコトヲ希望スル所ナリ
 一乙表ニ掲ケタル事項ヲ報告スルニハ多少ノ注意ト雨量計トヲ要スルカ故ニ總テノ報告者ニ向テ其記入ヲ望ムコト能ハスト雖モ雨量計ノ備アル場所及熱心ナル報告者ニ於テハ可成其全部或ハ一部ノ報告アリタシ
 一雜記欄内ニハ先雷鳴ノ強弱及雷鳴ハ報告者ノ居所ノ近傍或ハ遠方ニ在リシヤヲ記シ次ニ雲ノ模様ニ狀方尙速度并ニ雷雨全体ノ模様落雷ノ有無損害ノ景况其他觀測者ノ認メテ緊要ト爲ス事項ヲ記スヘシ
 一方向(方角)ハ總テ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ八種ニ區別シテ記スヘシ
 一雨ノ強弱ハ微、強、烈ノ三種ニ區別シテ記スヘシ但微ハ雨聲無キモノトス強ハ雨聲アルモノ烈ハ雨聲人語ヲ攪スルモノトス
 一風力ハ軟風、和風、疾風、強風、暴風、颶風ノ六種ニ區別シ更ニ無風ヲ加ヘ七種トナシ記入スヘシ但無風ハ畑全ク直昇シ或ハ殆ント直昇シ又樹葉動サルモノ軟風ハ風ヲシ

テ風ノ感覺ヲ起サシムルノ和風ハ樹葉ヲ動スモノ疾風ハ小枝ヲ動スモノ強風ハ勁枝ヲ動スモノ暴風ハ大樹ノ幹ヲ動スモノ颶風ハ樹ヲ拔キ屋ヲ破毀スル等ノ大風トス
 一雲ノ形狀速度等ノ觀測ハ稍經驗アルモノニアラサレハ實施シ難キコトアレハ本項ノ說明ハ本臺刊行ノ觀測法ニ譲ル
 一雹ノ大小ハ尋常人ノ知リ易キ物品ニ比較シテ記スヘシ例ヘハ豆ノ如ク或ハ鶏卵ノ如クトイフカ如ク又雹ノ甚大ナルモノハ併テ其重量ヲモ記入アリタシ
 一時刻ハ可成正確ニ記スルヲ要スルカ故電信局或ハ鐵道停車場ノ近邊ニ住居ノ報告者ハ常ニ自己ノ時計ヲ電信局或ハ停車場ノ時計ニ比較シ置レタシ
 明治廿二年六月 中央氣象臺

積雪報告 明治 年 月 日 至 日 第 號

觀測所	國	郡市	區	町	村	番地
日次	有雨雪ノ	積雪ノ深サ	「センチメートル	或ハ曲尺」	記	事
日						
日						

日	日	日	日	日	日	日	日	日

明治 年 月 日發送

報告者

積雪報告記入心得

積雪ノ深サヲ測ルニハ先ツ平坦ニシテ且ツ風ノ爲メニ雪ヲ吹集メ吹散サルノ憂ナキ場
所ヲ撰定シテ柱ヲ垂直ニ樹テ地面ヲ零トシテ上ノ方ヘ「センサメートル」宛ニ目ヲ盛

置クベシ之レヲ積雪計トス

但シ「センサメートル」ノ目盛ヲナス能ハサル者ハ曲尺ニテ何尺何寸等ト目盛スルモ
妨ナシ

積雪地面ヲ蔽フ間ハ其増減ニ拘ハラズ毎日午前十時ニ於テ積雪計ノ埋レル深サ及ヒ其
日ニ降雨降雪ノ有無ヲ記シ定期報告トシテ毎月十日廿一日及ヒ三十一日ニ之レヲ東京
へ郵送スヘシ

記事欄内ニハ左ノ事項ヲ記入スヘシ

最初及ヒ最後降雪ノ月日雨或ハ雪ヲ交ヘレヤ否ヤ地上ニ存留セシヤ否ヤ
地面ヲ蔽ヘル最初及ヒ最後降雨ノ月日

大雪ニ就テノ記事雪ノ急速ニ融解セルコト水流ノ急速ニ増嵩セルコト近傍諸山積雪ノ多
少等

○地震其他ハ山口測候所へ報告ノ件

明治二十七年一月廿六日
山口縣訓令三丁第七五号

大島、郡濃、厚狹、那 役 所
豊浦、大津

明治廿四年十二月二乙第五八二五号訓令ニヨリ地震雷雨積雪初終霜雪取調之儀ハ自今
嶺野私立山口測候所へ報告スヘシ
但報告用紙ハ當廳ヨリ回付スヘシ

右訓令ス

○地震雷雨積雪其他報告廢止

明治二十七年一月二十六日
山口縣訓令三丁第七五号

以珂、熊毛、佐波
吉敷、美禰、阿武見島 郡 役 所

明治廿四年十二月二乙第五八二五号地震雷雨積雪初終霜雪取調報告ハ廢止ス
右訓令ス

○落雷取調報告ノ件

明治二十七年十月十九日
帝國大學第五一八号

從來本學ニ於テ學術研究上落雷ニ關シ取調居候義ニ候處落雷後地方廳ヨリ官報ヘ報告セラル、モノ有之研究ノ實ニ供シ居候得トモ往々區々ニ涉リ比較研究上不便ニシテ且要項ヲ知悉シ得サル義モ有之候間可相成ハ今後落雷ノ都度別記諸項御取調本學ヘ御報告相成候様致度尤右諸項等ニ都度官報ニ登載可相成候ハ、別ニ御報告ニ及ハス就テ調査可致義ニ有之候將又可相成ハ右事項ニシテ從前ノ分此際御取調相整候ハ、御取調御通報相成候様致シ度右現象ヲ明ニムルトキハ學術上ノ裨益甚カラサルノミナラス一般公衆ノ利便トモ可相成義ニ候間極メテ御手數之義ニ候得共特ニ御配慮相煩シ度此段及御依頼候也

(別記)

一 落雷ノ年月日及時刻(凡何時頃)

二 落雷ノ爲メ人ノ氣絶負傷或ハ震死セシコト

何々ノ場所ニ於テ男若クハ女何人氣絶負傷或ヒハ震死

三 落雷ノ場所即何縣何郡何所及種類即家屋(避雷針ノ有無)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等

四 落雷ノ爲メ生シタル損害即家屋(器具共)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等ニ對スル落雷ノ形跡及破損ノ有様(出来得ル丈ケ細大不殘圖解ヲ付シテ)等

五 落雷ノ爲メ牛馬等ノ震死セシコト

六 落雷ノ爲メ電信、電話、電燈線、及其機械ニ起リシ現象并ニ損害等

○落雷取調報告ノ件 郡市長宛

明治二十七年十二月廿五日
山口縣内務部長照會三丁第一五六二号

落雷ニ關シ左記ノ事項調査ヲ要シ候ニ付其都度取調急速報告相成様致度此段及照會候也

(左記ハ大學照會中ノ別記ノ通ニ付略)

○落雷ニ關スル事項調査ノ件

明治二十七年十二月二十五日
山口縣三丁第一五六二号

落雷ニ關シ左記ノ事項調査ヲ要シ候ニ付其都度取調急速報告相成様致度此段及照會候也

一 落雷ノ年月日及時刻(凡何時頃)

右訓令ス

○地震雷雨積雪其他報告廢止

明治二十七年一月二十六日
山口縣訓令三丁第七五号

以珂、熊毛、佐波
吉敷、美禰、阿武見、郡 役 所

明治廿四年十二月二乙第五八二五号地震雷雨積雪初終霜雪取調報告ハ廢止ス
右訓令ス

○落雷取調報告ノ件

明治二十七年十月十九日
帝國大學第五一八号

從來本學ニ於テ學術研究上落雷ニ關シ取調居候義ニ候處落雷後地方廳ヨリ官報へ報告セラル、モノ有之研究ノ資ニ供シ居候得トモ往々區々ニ涉リ比較研究上不便ニシテ且要項ヲ認識シ得サル義モ有之候間可相成ハ今後落雷ノ都度別記諸項御取調奉學へ御報告相成候様致度尤右諸項等々都度官報ニ登載可相成候ハ、別ニ御報告ニ及ハス就テ調査可致義ニ有之候將及可相成ハ右事項ニシテ從前ノ分此際御取調相整候ハ、御取調御遺報相成候様致シ度右現象ヲ明ニスルトキハ學術上ノ裨益甚カラサルノミナラス一般公衆ノ利便トモ可相成義ニ候間極メテ御手數之義ニ候得共特ニ御配慮煩シ度此段及御依頼候也

(別記)

一 落雷ノ年月日及時刻(凡何時頃)

二 落雷ノ震メ入ノ氣絶負傷或ハ震死セシコト

何々ノ場所ニ於テ男若クハ女何人氣絶負傷或ハ震死

三 落雷ノ場所即何縣何郡何所及種類即家屋(避雷針ノ有無)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等

四 落雷ノ爲メ生シタル損害即家屋(器具共)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等ニ對スル落雷ノ形跡及破損ノ有様(出来得ル丈ケ細大不殘圖解ヲ付シテ)等

五 落雷ノ爲メ牛馬等ノ震死セシコト

六 落雷ノ爲メ電信、電話、電燈線、及其機械ニ起リシ現象并ニ損害等

○落雷取調報告ノ件 郡市長宛 明治二十七年十二月廿五日
山口縣内務部長照會三丁第一五六二号

落雷ニ關シ左記ノ事項調査ヲ要シ候ニ付其都度取調急速報告相成候致度此段及照會候也

(左記ハ大學照會中ノ別記ノ通ニ付略)

○落雷ニ關スル事項調査ノ件

明治二十七年十二月二十五日
山口縣三丁第一五六二号

落雷ニ關シ左記ノ事項調査ヲ要シ候ニ付其都度取調急速報告相成候致度此段及照會候也

一 落雷ノ年月日及時刻(凡何時頃)

- 二 落雷ノ爲メ人ノ氣絶、負傷或ハ震死セシコト
何々ノ場所ニ於テ男若クハ女何人氣絶、負傷或ハ震死
 - 三 落雷ノ場所即何縣何郡何所及種類即家屋(避雷針ノ有無)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等
 - 四 落雷ノ爲メ生シタル損害即家屋(器具共)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等ニ對スル落雷ノ形跡及破損ノ有様(出来得ル丈ケ細大不殘圖解ヲ付シテ)等
 - 五 落雷ノ爲メ牛馬等ノ震死セシコト
 - 六 落雷ノ爲メ電信、電話、電燈線及機械ニ起リシ現象并ニ損害等
- 内外國航船海上氣象報告ノ件 明治二十一年十二月廿七日
内務省令第十一號
- 明治十九年遞信省令第四号第六條ニ掲グル内國航船外國航船ニ限リ來ル明治二十二年一月一日ヨリ左ノ雛形ニヨリ毎月海上氣象表ヲ製シ中央氣象臺ニ報告スヘシ
(雛形略之)
- 内務省令第十一号參照
- 遞信省令第四号西洋形船舶検査細則(明治十九年四月八日)第六條抄錄
- 第一外國航船 内外國諸港ニ航進スルモノ
 - 第二内國航船 内國諸港ニ航進スルモノ但朝鮮國南界ノ鴨綠江ヨリ露領龍江ニ至ル沿岸及薩俄噠諸港ニ航スルモノモ包含ス

○氣象觀測事務委託

明治廿六年十一月廿一日
山口縣訓令二丁第六四二号

玖珂 熊毛 佐波 郡役所
美禰 阿武 見島

明治廿五年内務省令第五号氣象臺測候所條例施行細則第二條ニヨリ管内ノ氣候ヲ調査スル爲メ其所在地(阿武見島郡役所ヘハ及見島トス)ノ氣象觀測事務委託候條主任者ヲ定メ届出テ明治廿七年一月一日ヨリ事務取扱フヘシ

(阿武見島郡役所ヘハ左ノ但シ書ヲ附ス)

但見島ハ駐在書記ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ

右訓令ス

○氣象觀測調査事項

明治廿六年十二月二十七日
山口縣訓令三丁第一三四一号

玖珂 熊毛 佐波 郡役所
美禰 阿武 見島

明治廿七年一月一日ヨリ其所在地(阿武見島郡役所ヘハ「及」ノ氣象觀測事務委託ノ節本年十一月廿一日及訓令置候處該調査事項觀測時刻及報告圖類左記之類相定候條其結果ハ頓野私立山口測候所ヘ報告スヘシ

但觀測器械類并觀測野帳月報用紙及同記入心得書ハ内務部ヨリ送付セシム
右訓令ス

調査事項

空氣壓力、空氣溫度、空氣濕度、雨雪水量、雲、天氣、風、霧、霜、雷、電、地震、積雪、其他ノ氣象現象

觀測時刻

空氣壓力、空氣溫度、空氣濕度、雨雪水量、雲、天氣 及風ハ毎日午前十時一回ノ觀測トス

但暴風警戒中及大變異常ノ際ハ臨時數回ノ觀測ヲナスヘシ

雲、天氣、風、(前項觀測ノ外)霧、霜、雷、電、地震、積雪、其他ノ氣象ハ隨時現象ヲ觀測ス

報告種類

月報、年報、暴風報告、初終霜雪霰報告、雷雨報告、地震報告、積雪報告、異常現象報告

○管内氣象ニ關スル取調事項囑托 明治二十七年一月廿六日 山口縣三丁第七六號

順野私立山口測候所

本年度ニ於テ囑托セシ氣象觀測取調事件ノ外明治廿五年五月內務省令第五号第二條ニヨリ取調フベキ管内氣象ニ關スル事項左記ノ通り本月ヨリ囑托ス
一 管內ニ於テ指定シタル管内各處ノ氣候ヲ調査シ中央氣象臺ヘ報告スル事

○警戒電報取扱心得

明治二十七年九月四日 山口縣訓乙第三十六號

郡役所 警察署(赤間關ヲ除ク)

監獄署 監獄支署(赤間關ヲ除ク)

警戒電報取扱心得別冊ノ通改正シ明治二十七年九月十日ヨリ施行ス
但明治二十五年訓乙第三十三號警戒電報心得ハ同日限廢止ス

警戒電報取扱心得

第一條 警戒電報トハ暴風ノ警戒ヲ要スル郡役所警察署等ニ向ヒ順野私立山口測候所ヨリ轉發スル電報ヲ云フ

第二條 沿海ノ警戒電報ヲ發セシ後内地ノ警戒ヲモ必要ト認メタルトキハ更ニ内陸警戒電報ヲ追發スルモノトス

第三條 警戒電報ハ片假名八個ヲ左ノ順序ニ從ヒ列記スルモノトス

警戒ノ位置 低氣壓ノ位置 中心進 行方向 注意

第一表 第二表 第三表 第四表 第五表 第六表

第四條 低氣壓ノ位置進行方向未詳ナルトキ及ハ警戒ヲ繼クトキ及ヒ警戒ヲ解クトキハ片假名一個即チ警戒ノ符号ノミヲ電報スルモノトス但注意ヲ要スルトキハ片假名

一個又ハ二個ノ注意ヲ付スルコトアルヘシ

警戒 注意 注意

○ [C] [OO]

第一表

第五條 警戒中低氣壓ノ模様ヲ追報スルトキハ片假名七個ヲ左ノ順序ニ従ヒ列記スルモノトス

低氣壓ノ位置 低氣壓ノ示度 記事 中心進 行方向 注意

○ ○ } 第二表 第三表 第四表 第五表 第六表

第六條 警戒電報ノ符號ハ付録第一表ヨリ第六表ニ據ルモノトス

警戒電報ノ例

第一 電報符號

ハシロモムテウヘ

譯文

風雨ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス

低氣壓ノ位置ハ九州西部ノ沖ニアリテ其示度七五〇耗ナリ九州北部ニ大雨アリ

低氣壓ノ中心ハ北東ニ進ム(注意)風ハ至ニ南東乃至南西ヨリ西又ハ北ニ轉セン

(何月何日午後何時ヨリ有効)

第二 電報符號

譯文

内陸ノ警戒ヲ解ク

沿海ハ尙警戒中

第三 電報符號

ホ

譯文

沿海ノ警戒ヲ解ク

附錄

警戒電報取扱心得 一暴風警戒ノ有効時間ハ警戒電報發信時ヨリ同解除電報到達迄トス因テ同電報ノ到達スルヤ否ヤ揭示場ヨリ直ニ前譯文ヲ取除クモノトス

一海陸警戒中内陸警戒ノニ解キタル場合ニハ沿海ノ警戒ハ尙ホ有効ナルヲ以テ警戒電報譯文ハ取除カズ之レコ列チテ内陸ノニ警戒解除電報ヲ揭示スルモノトス

一全ク警戒ヲ解キタル場合ニハ前譯文ヲ取除キ此譯文ハ揭示セザルモノトス

一警戒符號譯文ハ特ニ朱書シテ之レニ墨書ニテ假名ヲ附スルモノトス

符號	解釋	釋
イ	低氣壓ノ位置ハ	琉球那覇
ロ	同	薩摩鹿兒島
ハ	同	日向宮崎
ニ	同	土佐高知
ホ	同	阿波徳島
ヘ	同	紀伊和歌山
ト	同	豊後大分
チ	同	周防山口
リ	同	安藝廣島
ル	同	伊豫松山
カ	同	讃岐度津
シ	同	備前岡山
タ	同	攝津
レ	同	大坂

(附録) 第二表

(低氣壓位置地名符號)

符號	譯文
イ	海上不穩ノ虞アリ沿海ヲ警戒ス <small>シカモ此ノ時ニハ</small>
ロ	海上暴風ノ虞アリ沿海ヲ警戒ス <small>シカモ此ノ時ニハ</small>
ハ	風雨ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス <small>シカモ此ノ時ニハ</small>
ニ	暴風雨ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス <small>シカモ此ノ時ニハ</small>
ホ	沿海ノ警戒ヲ解ク <small>シカモ此ノ時ニハ</small> (警戒電報譯文ヲ取除クヘシ)
ヘ	内陸ノ警戒ヲ解ク <small>シカモ此ノ時ニハ</small> (沿海ハ尙警戒中)
ト	海陸ノ警戒ヲ解ク <small>シカモ此ノ時ニハ</small> (警戒電報譯文ヲ取除クヘシ)

(附録) 第一表

(警戒符號)

氣象

メメメメメメメメメメメメメメメメキキ
ツレタヨカアルリチトへホニハロイスモ

同同同同同同同同同同同同同同同同

陸陸陸岩羽羽越信越加下常下同同武上
奥中前代後前後濃中賀總陸野藏野
青宮石福秋山新長伏金銚湊都京濱谷橋
森古卷島田形瀧野水澤子町宮京濱谷橋

同同同同同同同同同同同同同同同同

卅五

キキキキキキキキキキキキキキキキ
ヒシメキサアテフケヤオ井ウムラチツ

同同同同同同同同同同同同同同同同

駿甲遠美尾伊近伯石長對筑同肥肥山太
河斐江濃張名勢江者見門島前前後城和
沼甲濱岐古屋津根境田關原岡崎賀本都木
津府松阜屋津根境田關原岡崎賀本都木

同同同同同同同同同同同同同同同同

卅四

セ セ セ セ セ セ セ セ セ セ セ セ セ セ セ
ラ ナ ツ レ タ ヨ カ ル リ ナ ト へ ホ ニ ハ ロ イ

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

九州及四國 四國 九州 太平洋沿岸 日本海全部 九州北部 九州東部 能登近傍 尾張近傍 北海道南東部沖 北海道東部 北海道中部 北海道南部 北海道西北部沖 北海道北部 極北東部 極南西部

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ
ス モ ヒ シ メ キ サ ア タ フ ケ ヤ オ 井 ウ ム ラ

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

極西東部 本州西部 北東海岸 北東海岸 東海岸 南海岸 西海岸 本州北部 本州中部 本州西部 中部 北部 南部 東部 西部 朝鮮海峽

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ
ヨ	カ	ル	リ	ナ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
其示度											
七〇〇	七〇一	七〇二	七〇三	七〇四	七〇五	七〇六	七〇七	七〇八	七〇九	七一〇	七一一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
耗ナリ											

(附錄) 第三表

(氣壓符號)

低氣壓ノ位置確カナラス因テ譯文中ニハ低氣壓ノ位置ヲ省クヘシ

セセセセセセセセセセセセセセセセ
 スセモヒシメキサアテッケヤオ井ウム

同同同同同同同同同同同同同同同

瀨戸内海ノ西部
 瀨戸内海ノ中部
 瀨戸内海ノ東部
 朝鮮ノ南部
 朝鮮ノ東部
 本州ノ東海岸
 本州ノ北西海岸
 本州中部ノ内陸
 南海岸中部ノ沖
 九州及四國南部ノ沖
 南海岸東部ノ沖
 紀伊半島
 中山國
 山陰道
 北陸道

同同同同同同同同同同同同同同同

ン ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス
 ン 子 カ ル リ チ ト ヘ ホ ニ ハ ロ イ ス モ ヒ

其示度不明ナリ
 低氣壓ノ示度確カナラス因テ譯文ニハ低氣壓ノ示度ヲ省クヘシ

同 同 同 同 同 同 同 同

七六三
 七六四
 七六五
 七六六
 七六七
 七六八
 七六九
 七七〇

同 同 同 同 同 同 同 同

モ モ モ モ モ モ モ モ モ モ モ モ モ モ
 レ メ キ サ ア テ フ ケ ヤ オ 井 ウ ム ラ 子 ツ レ

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

七四六
 七四七
 七四八
 七四九
 七五〇
 七五一
 七五二
 七五三
 七五四
 七五五
 七五六
 七五七
 七五八
 七五九
 七六〇
 七六一
 七六二

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

(附録) 第四表

(記号符號)

符號	解釋
イ	晴雨計降ル
ロ	最低氣壓所在近傍晴雨計大ニ降ル
ハ	四國沖
ニ	内海ノ西部
ホ	内海ノ東部
ヘ	尾張灣近傍
ト	南東部
チ	朝鮮海峽
リ	廣島境岡山近傍
ヌ	能登近傍
ル	本州中部ノ内陸
ヲ	新潟秋田近傍
ワ	本州ノ北部
カ	石巻宮古近傍

ニ於テ晴雨計大ニ降ル
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

ヨ	北海道西部
タ	北海道東部
レ	晴雨計俄カニ昇ル
ツ	最低氣壓二個アリ
子	同
ナ	同
ラ	同
ム	同
ウ	同
キ	同
ヤ	同
マ	同
ケ	同

同 同
 其一ハ九州南部ノ沖ニアリ
 同 四國ノ沖ニアリ
 同 南海岸ノ中部沖ニアリ
 同 南東海岸ノ沖ニアリ
 同 瀬戸内海ノ西部ニアリ
 同 瀬戸内海ノ東部ニアリ
 同 朝鮮南部ニアリ
 同 日本海ノ南部ニアリ
 同 能登沖ニアリ
 同 本州中部ノ内陸ニアリ
 同 北西海岸沖ニアリ
 同 本州ノ北部ニアリ
 同 東海岸沖ニアリ
 同 北海道ノ西岸沖ニアリ

符號	ノ サ ア テ フ ケ ヤ オ 井 ウ ム	符號
解釋	<p>(附錄) 第六表</p> <p>低氣壓ノ中心ハ北ニ進ム 同 北東ニ進ム 同 東ニ進ム 同 南東ニ進ム 同 南ニ進ム 同 南西ニ進ム 同 西ニ進ム 同 北西ニ進ム 同 動カス</p> <p>低氣壓ノ中心ノ進行スル方向ハ未タ詳カナラス 譯文中ニ中心進行方向ヲ省クベシ</p>	解釋

符號	ス セ 田 ロ エ シ ミ メ ヨ キ サ ア テ ュ コ フ	符號
解釋	<p>(附錄) 第五表 (低氣壓中心進行方向符號)</p> <p>同 同 九州南部 九州北部 四國南部 山陰地方 廣島岡山近傍 畿内 北陸地方 尾張澁地方 駿遠地方 武總地方 甲府長野近傍 宇都宮福島近傍 秋田青森近傍 宮古石巻近傍</p> <p>同 同 北海道ノ南東海岸沖ニアリ 同 オホーツク海ニアリ 同 ニ大雨アリ</p>	解釋

ラ子ツレタヨカルリチトヘホニハロイ

(注意) 風ハ主ニ北東乃至南東ナラン
 同 南東乃至南西ナラン
 同 南西乃至北西ナラン
 同 北西乃至北東ナラン
 同 風ハ北東乃至南東ヨリ南ヲ經テ西又ハ北ニ轉セン
 同 風ハ南東乃至南西ヨリ西又ハ北ニ轉セン
 同 風ハ北東乃至南東ヨリ北ヲ經テ西又ハ南ニ轉セン
 同 風勢強キモ格別ノ害ナカラン
 同 内陸ニハ格別ノイナカラン
 同 風勢稍強カラシ
 同 本縣内ニハ大害ナカラン
 同 暴風強烈ナラン充分注意アリタシ
 同 高潮ナラハ特ニ海岸ニ注意アリタシ
 同 出水ノ虞アリ堤防橋梁等ニ注意アリタレ
 同 多量ノ雨アラシ
 同 山地ニハ特ニ多量ノ雨アラシ
 同 此荒レ一免ツ止ムモ續テ又荒アルモ知レス

ムウキオヤケテアサキモス

同 此荒レノ後雨天勝チノ日和トナルモ知レス
 同 同シク晴天トナルナラン
 同 後チ寒氣加ハルナラン
 同 日本海ハ特ニ浪高カラシ
 同 瀬戸内海ハ甚タ猛烈ニ至ラサルナラン
 同 風衰フレハ霧起ラン
 同 暴風雨強烈ナラン被害ノ模様電報セラレヨ
 同 電報又ハ郵報セラレヨ
 同 直ニ郵報セラレヨ
 同 風向ハ北又ハ西ナリ特ニ長門沿海ノミヲ警戒セリ
 同 南又ハ東ナリ特ニ瀬戸内海沿海ノミヲ警戒セリ
 同 強烈ノ見込ナリ確報ハ追テ電報ス
 同 電信不通トナリテ後報ヲ通スルノ途絶ユルモ知レス
 (注意)ノ部ヲ譯文中ニ省クヘシ

○中央氣象臺氣象器械檢定規程 明治廿九年三月七日 文部省令第三號
 中央氣象臺氣象器械檢定規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
 第一條 中央氣象臺ニ氣象器械ノ檢定ヲ依頼スル者ハ此規程ニ據ルヘシ

第二條 檢定ヲ了シタル器械ニハ器差ヲ示シタル檢定證ヲ交附ス

前項ノ檢定證ヲ分テ甲乙二種トス器差齊整ニシテ精密ナル觀測用ニ適スト認ムルモノハ甲號證ヲ交附シ其他ノモノモハ乙號證ヲ交附ス

第三條 氣象器械ノ檢定ヲ依頼スル者ハ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ一旦納付シタル手数料ハ如何ナル事故アルモ還付セス

第四條 氣象器械檢定手数料ノ金額ハ器械ノ種類檢定ノ難易ニ依リ本條各項ノ範圍内ニ於テ中央氣象臺長之ヲ定ム

一 水銀晴雨計 金壹圓乃至參圓

一 空盒晴雨計 金參拾錢乃至壹圓五拾錢

一 寒暖計 金貳拾錢乃至壹圓

一 雨量計 金拾錢乃至五拾錢

一 風力計 金五拾錢乃至壹圓五拾錢

第五條 第四條ニ記載セサル氣象器械ト雖モ時宜ニ依リ檢定ノ依頼ニ應シ且檢定證ヲ交附スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其手数料ハ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル

第六條 時日ヲ限り檢定ヲ依頼スル者アルトモ時宜ニ依リ之レニ應スルコトアルヘシ此場合ニテハ普通手数料ノ二倍ヲ徵收スヘシ但寒暖計ニ限り同入コシテ六個以上ノ檢定ヲ同時ニ依頼スルモノハ外ハ普通手数料ノ五倍以内ヲ增徴スヘシ

第七條 檢定證ヲ紛失シ再渡交附ヲ依頼スル者アルトモ該證ノ寫ヲ交附スヘシ此場合ニ於テハ手数料金拾錢ヲ徵收スヘシ

第八條 檢定ノ依頼ニ係ル器械ニハ中央氣象臺ニ於テ檢定中相當ノ保護ヲ加フヘシト雖モ若シ破損スルコトアルモ該臺ハ其責ニ任セス

第九條 中央氣象臺ノ必要上檢定スル所ノ器械ニ對シテハ手数料ヲ徵收セス

第十條 第四條又ハ第六條ノ檢定ヲ依頼セントスル者ハ第一書式又ハ第二書式ノ依頼書ヲ作り第七條ノ檢定證再渡交付ヲ依頼セントスル者ハ第三書式ノ依頼書ヲ作り其手数料金ニ相當スル登記印紙ヲ貼付シ中央氣象臺ニ差出スヘシ

各種氣象器械檢定依頼書式左ノ如シ

第一書式 (用紙美濃紙)

登記印紙

貼用シ

消印スヘ

檢定依頼書

何國何某製 器械附刻ノ番號

一何計 一個

何國何某製 器械附刻ノ番號

一何器 一個

右檢定相成度及御依頼候也

年月日

依頼者住所

氏

名印

中央氣象臺長 氏

名殿

第二書式 (用紙美濃紙)

登印印紙
ヲ貼用シ
消印スヘ

檢定依頼書

何處何某製 器械附刻ノ番號

一何計

一箇

右來ル何月何日迄ニ檢定相成度及御依頼候也

年月日

依頼者住所

氏

名印

中央氣象臺長 氏

名殿

第三書式 (用紙美濃紙)

登印印紙
ヲ貼用シ
消印スヘ

檢定證再度交付依頼書

何處何某製 舊證書番號及器械附刻ノ番號

一何計

一箇

右檢定證書紛失ニ付再渡交附相成度及御依頼候也

年月日

依頼者住所

氏

名印

中央氣象臺長 氏

名殿

第十一條 本令ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

◎特許

○特許條例

明治二十一年十二月十八日
勅令第八十四號

朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタルモノハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 飲食物嗜好物
- 二 醫藥并其調合法
- 三 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試験ノ爲メ公ニ知ラレタル二年以内ノモノハ地盤ニ在ラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシ

メ特許ヲ與マヘント査定シタル後ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登録シ特許
證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添
ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモ
ノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ
與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモ
ノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主
ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主ハ承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得ル場合ニ
於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フ
ルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報
酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者

ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲グルモノハ其特許ヲ無効トス

一 新規又ハ有益ナラザリシコトヲ發見セラレタルモノ
二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ
三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシコトヲ發見セラ
レタルモノ

四 發明ヲ實施スルニ必要ナラザル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラ
レタルモノ

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發見ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルト
キハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スル
コトヲ得

再審査ヲ請求スル際アルトキハ特許局長ハ特許審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ審
査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人ノ
特許發明ト抵觸スルヲ査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ

其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞着スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其採取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスレテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但報酬ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ制限ニ在ラス

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス
一 特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ

二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生ズルモノハ此限コトヲス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシ

テ記載セシコトヲ發見セタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

願項ノ場合ニ發テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證書ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メサル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ 一 發明毎ニ金五圓
- 二 特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ特許ヲ請求スルトキ 一 發明毎ニ金三圓
- 三 特許證書ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ金五圓
- 四 特許證書ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ 一 發明毎ニ金五圓
- 五 審判ヲ請求スルトキ 一 事件毎ニ金七圓

第三十一條 特許證書又ハ改訂特許證書ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

- 一 五年ノ特許 金拾圓
- 一 十年ノ特許 金拾五圓
- 一 十五年ノ特許 金貳拾圓

第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ飛庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求書アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下タルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ複製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證書ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ偽ヲ知り偽造品ヲ使用者クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證書ノ權ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ偽ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ方テハ其犯罪ノ物等ヲ沒收シテ特許證書ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ還徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證書ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ偽ヲ知りテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ
販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許權主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ忘リタルトキハ告
訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辨セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所
ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ
裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止ス

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年(四月)第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス
但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効ア
ルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス
○特許條例施行細則 明治二十五年十一月十八日 農商務省令第十七號
明治二十二年(一月)農商務省令第一號特許條例施行細則左ノ邊改正シ明治二十五年十

二月一日ヨリ施行ス

第一章 總則

第一條 凡ソ特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通ヲ作り之ニ差出ノ年月日及ヒ差出
人ノ氏名身分職業及ヒ住所ヲ記載シ明細書及ヒ圖面ニハ差出人ノ氏名ノヨリ記載シ
テ捺印スヘシ

審判請求書、始末書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ニハ正本ノ外關係
人又ハ對手人ノ目數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第二條 書類ハ字體ヲ明瞭ニ認メ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除又ハ欄外ノ記入
アルトキハ之ニ捺印スヘシ

第三條 書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルトキ若クハ之ニ關シテ照會
ヲ爲スルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六
十日以内ニ訂正改造若クハ回答ヲナサシムヘシ

第四條 差出人ニ於テ書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルコトヲ發見シ
タルトキハ其訂正若クハ改造ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ出願要部ニ變更ヲ生スルトキ又ハ特許局長(又ハ審判長)ニ於テ其必要ヲ認メ
サルトキハ之ヲ許可セス

第五條 審判請求書、始末書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニ訂正ヲ如ヘタルトキ

ハ許特局長(又ハ審判長)ハ其訂正書ヲ關係人又ハ對手人ニ送付スヘシ
第六條 已ムヲ得サル事故ノ爲メニ此細則ニ定メタル期限内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ
爲シ難キトキハ其事由ヲ記載シ口頭審判ノ期日ニ係ルトキハ對手人ノ連署ヲ以テ期
限内ニ延期請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ相當ト認メタルトキハ許特局長(又ハ審判長)ハ更ニ相當ノ期限ヲ定メ
之ヲ差出人及ヒ關係人若クハ對手人ニ通知スヘシ

第七條 出願人此細則ニ定メタル期限又ハ許特局長(又ハ審判長)ノ定メタル期限内ニ
成規若クハ指定ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其出願ヲ無効トス

審判請求書、始末書、延期請求書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辨書及ヒ訂正書ハ前
項ノ期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第八條 審判請求書、始末書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辨書ニハ主張ノ事實ヲ證明
スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第九條 書類、圖面、雛形、及ヒ見本ハ證據物トシテ差出シタルモノ、外其下戻ヲ求
ムルコトヲ得ス

第十條 出願人、請求人、關係人又ハ對手人ニ於テ代人ヲ使用スルトキハ委任狀ヲ添
ヘ其旨ヲ届出ツヘシ

代人ヲ不適當ト認メタルトキハ許特局長(又ハ審判長)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ
代人ヲ撰定セシムルコトヲ得

第十一條 特許年限ノ變更ハ變更ヲ與ヘタル後ニ於テ之ヲ許サス

第十二條 特許ノ登錄、改訂、取消、無効及ヒ削除其他特許ニ關スル必要ノ事項ハ特
許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 特許出願

第十三條 特許願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第一號
ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ姓名ニテ特許證ヲ受ケントスルトキハ特許願
書ニ其旨ヲ附記シ特許條例第八條ノ改良發明ニ係ルトキハ特許證生ノ承諾書若シ承
諾ヲ得ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添フヘシ

第十五條 特許願書ト同時ニ明細書又ハ圖面ヲ差出シ難キトキハ先ツ願書ノミヲ差出
シ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

願書ニ後レテ明細書又ハ圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘ
キモノナルコトヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第十六條 特許願書及ヒ明細書、圖面ノ完備シタルトキハ許特局長ハ願書ニ順號ヲ附
シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

特許

十一

第十七條 特許願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスル者ハ特許原簿登錄以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章 明細書、圖面、離形及ヒ見本

第十八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 發明ノ名稱
- 二 發明ノ性質及ヒ目的ニ從ヒ其種類ヲ表示スルニ足ルヘキ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス
- 三 發明ノ性置及ヒ目的ノ要領
- 四 發明ノ構成作用及ヒ結果ヲ簡單ニ說明ヲ要ス
- 五 圖面アルトキハ其略解
- 六 圖面ノ位置視點及ヒ符號ヲ以テ示シタル部分ヲ明記スルヲ要ス
- 七 發明ノ詳細ナル說明
- 八 普通ノ知能ヲ以テ發明ヲ實施スルニ妨ケナカラシムル爲メ發明及ヒ其實施ニ必要ナル事項ヲ詳細ニ圖面アルトキハ之ニ對照シテ說明ニ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス
- 九 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ關係

原發明ト改良發明トノ區別二者結合ノ要點及ヒ二者相須テ生スヘキ作用ヲ明確ニ記載スルヲ要ス

六 特許ノ請求區域

發明ヲ構成スルニ關クヘカヲササル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第十九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

- 一 特許權利ノ範圍ヲ明示スル爲メ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スルトキ
- 二 特許權利ノ存スル所ヲ明確ナラシムル爲メ同一發明又ハ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ數様ニ記載スルトキ
- 三 第二十條 圖面ニハ發明ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ト改良發明トノ關係ヲ示スヘシ
- 四 第二十一條 離形及ヒ見本ハ發明ニ必要ナル部分ノミニ付キ金屬又ハ木材等ヲ用ヒテ堅牢ニ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以内トシ破損若クハ變化ヲ恐スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ
- 五 但特許出願ノ發明、物質ニ係ルトキ又ハ特許局長ノ認可ヲ經若クハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第二十二條 特許證主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ離形又ハ見本ヲ